

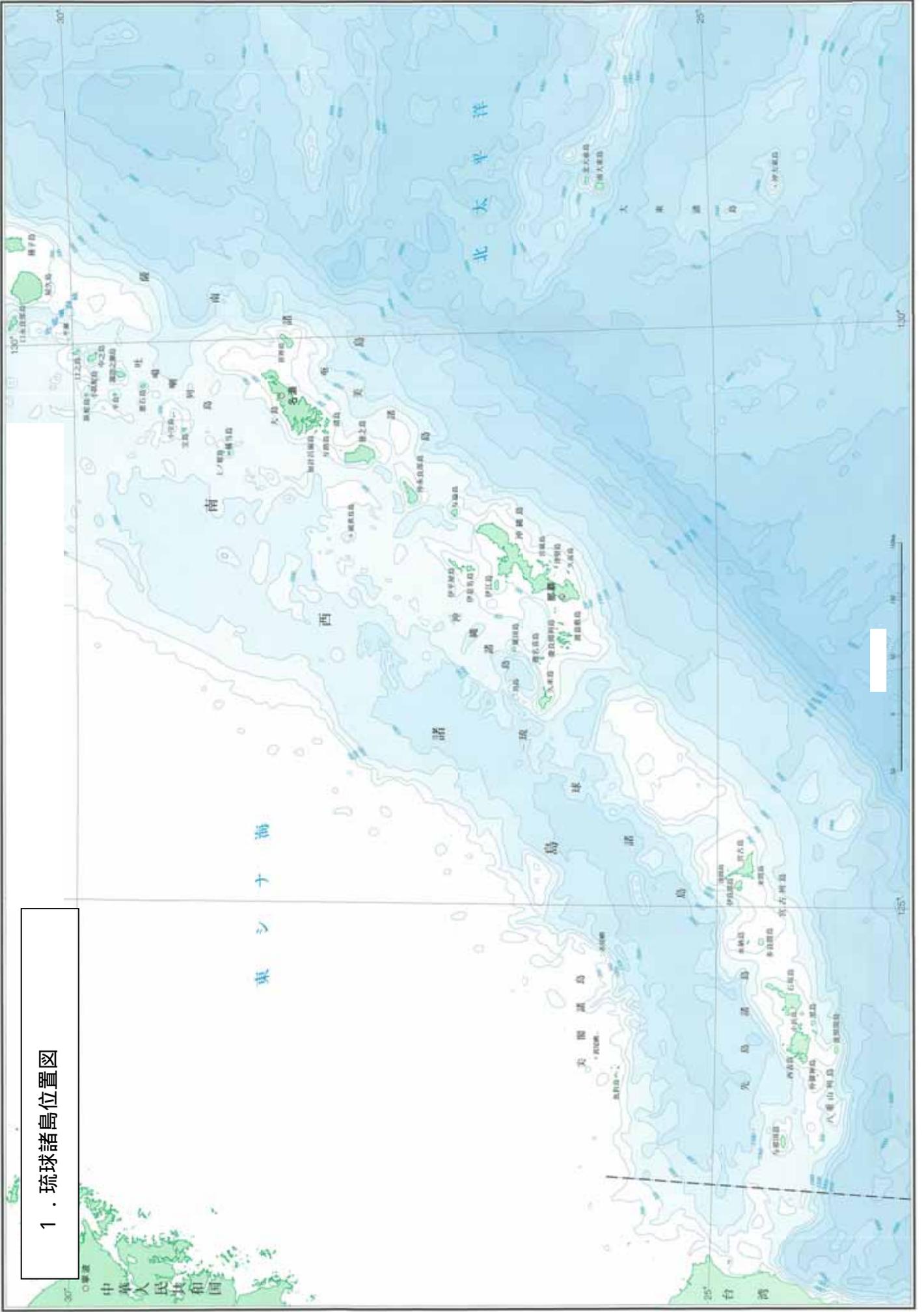
奄美地域の現状（資料集）

目次

1 . 琉球諸島概略位置図	1
2 . 奄美群島の社会経済状況	
島別人口の推移	2
人口構成（年齢別）の推移	3
産業別従事者数の推移	4
復興・振興・振興開発事業費の推移	5
3 . 自然資源等の現状	
自然景観資源一覧	6
常緑広葉樹・海岸植生等の分布	9
世界遺産指標種の一覧とメッシュ別分布図（動物、植物）	11
ウミガメ上陸地点、海鳥繁殖地	21
藻場・干潟・サンゴ礁	23
地形形成過程を示す要素（喜界島、沖永良部島）	25
4 . 歴史・文化	
指定文化財	28
文化的景観	29
奄美群島における人と自然との関わり（例示）	32
奄美群島自然共生プラン「奄美の『宝』（歴史・文化）」	33
5 . 自然公園制度の概要	
国立公園パンフ（別途配布）	
奄美群島国立公園概要図	51
6 . 利用の現状	
観光客数の推移	53
月別入込者数	54
主要施設の利用者数	55
宿泊施設	55
交通（空路・海路）	56
エコツアー等実施状況	58

7 . 奄美における林業

島別林野面積	62
林業生産実績の推移	63
木材業、製材業及びチップ工場の所在状況の推移.....	64



1. 琉球諸島位置図

2. 奄美群島の社会経済状況

島別人口の推移

単位：人

年	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島	計
昭和 30 年	103,907	16,037	50,932	26,636	7,851	205,363
昭和 40 年	94,348	14,231	45,662	22,049	7,181	183,471
昭和 50 年	85,171	11,464	35,391	16,882	6,971	155,879
昭和 55 年	85,600	11,169	34,646	17,339	7,320	156,074
昭和 60 年	84,799	10,591	33,632	16,818	7,222	153,062
平成 2 年	79,302	9,641	31,231	15,956	6,704	142,834
平成 7 年	75,832	9,268	29,156	15,325	6,210	135,791
平成 12 年	73,896	9,041	28,108	15,171	6,099	132,315
平成 17 年	70,462	8,572	27,167	14,551	5,731	126,483

(注) 奄美大島には加計呂麻島、請島、与路島を含む

出典：国勢調査

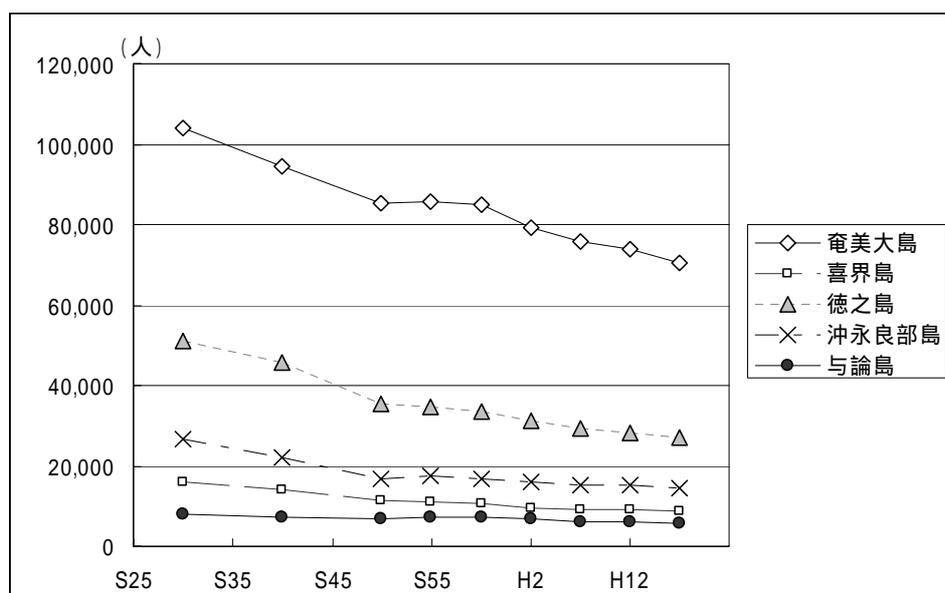


図 - 島別人口の推移

人口構成（年齢別）の推移

単位：人

年	15歳未満		15～64歳		65歳以上		不詳		計
昭和30年	78,057	38.0%	111,515	54.3%	15,785	7.7%	6	0.0%	205,363
昭和40年	70,430	38.4%	94,675	51.6%	18,461	10.1%	0	0.0%	183,566
昭和50年	44,101	28.3%	91,516	58.7%	20,252	13.0%	10	0.0%	155,879
昭和60年	37,425	24.5%	91,269	59.6%	24,368	15.9%	0	0.0%	153,062
平成7年	27,584	20.3%	77,054	56.7%	31,153	22.9%	-	-	135,791
平成12年	23,189	17.5%	74,607	56.4%	34,189	25.8%	330	0.2%	132,315
平成17年	20,045	15.8%	71,336	56.4%	35,081	27.7%	21	0.0%	126,483

出典：国勢調査

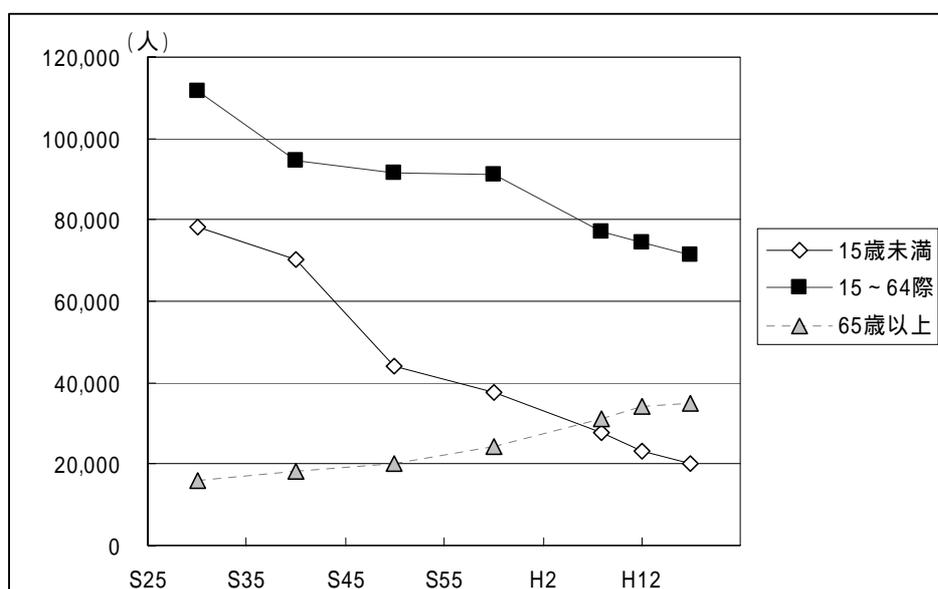


図 - 年齢別人口の推移

産業別従事者数の推移

単位：人

年別 産業別	奄美群島							鹿児島県		全国	
	S30	S40	S50	S60	H7	H17		H17		H17	
総数	97,928	76,704	68,064	69,894	58,822	55,429	100.0%	809,835	100.0%	61,505,973	100.0%
第1次産業	74,899	35,464	16,940	15,567	12,233	9,303	16.8%	94,335	11.6%	2,965,791	4.8%
農業	71,857	33,934	15,639	14,371	10,975	8,497	15.3%	86,141	10.6%	2,703,360	4.4%
林業	1,769	631	442	309	112	49	0.1%	1,175	0.1%	46,618	0.1%
漁業	1,273	899	859	987	1,146	757	1.4%	7,019	0.9%	215,813	0.4%
第2次産業	6,486	22,090	26,173	23,659	13,121	9,903	17.9%	171,497	21.2%	16,065,188	26.1%
鉱業	56	349	110	102	149	78	0.1%	674	0.1%	26,921	0.0%
建設業	2,316	5,279	4,936	6,987	7,991	6,711	12.1%	79,983	9.9%	5,391,905	8.8%
製造業	4,114	16,462	21,127	16,570	4,981	3,114	5.6%	90,840	11.2%	10,646,362	17.3%
第3次産業	16,535	19,096	24,804	30,532	33,420	36,183	65.3%	539,970	66.7%	41,328,993	67.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	-	242	325	409	426	357	0.6%	3,522	0.4%	279,799	0.5%
情報通信業	-	-	-	-	-	283	0.5%	7,486	0.9%	1,624,480	2.6%
運輸業	2,234	2,433	2,916	3,296	2,733	1,846	3.3%	35,286	4.4%	3,132,712	5.1%
卸売・小売業	6,017	6,736	8,660	10,548	10,589	8,480	15.3%	146,868	18.1%	11,018,413	17.9%
飲食店・宿泊業	-	-	-	-	-	839	1.5%	42,991	5.3%	3,223,451	5.2%
金融・保険業	-	-	635	983	997	230	0.4%	16,993	2.1%	1,537,830	2.5%
不動産業	273	491	39	97	132	3,308	6.0%	5,603	0.7%	859,635	1.4%
医療・福祉	-	-	-	-	-	7,628	13.8%	100,051	12.4%	5,353,261	8.7%
教育・学習支援事業	-	-	-	-	-	3,067	5.5%	38,163	4.7%	2,702,160	4.4%
複合サービス業	-	-	-	-	-	1,213	2.2%	14,202	1.8%	679,350	1.1%
サービス業	5,453	6,516	8,867	11,620	14,525	5,137	9.3%	92,451	11.4%	8,819,754	14.3%
公務	2,588	2,678	3,362	3,579	4,018	3,795	6.8%	36,354	4.5%	2,098,148	3.4%
分類不能の産業	8	54	147	36	48	40	0.1%	4,033	0.5%	1,146,001	1.9%

出典：国勢調査

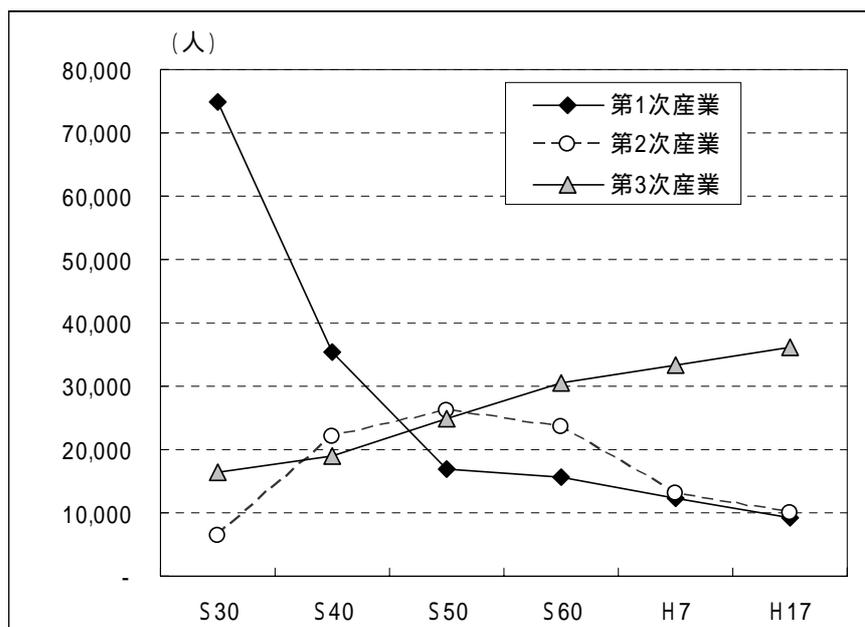


図-産業別就業者数の推移

復興・振興・振興開発事業費の推移

区分	年度	総計	
		事業費 (円)	国費 (円)
復興事業	昭和 29	903,662,733	689,370,714
	30	1,626,066,510	1,116,641,752
	31	1,641,353,371	1,118,663,266
	32	1,830,528,994	1,219,238,503
	33	2,163,625,915	1,222,995,588
	29～33	8,165,237,523	5,366,909,823
	34	3,566,252,666	1,275,650,933
	35	3,269,865,305	1,296,881,979
	36	1,839,558,128	1,369,898,855
	37	2,043,319,941	1,400,535,345
38	2,115,501,959	1,407,880,418	
34～38	12,834,497,999	6,750,847,530	
29～38	20,999,735,522	12,117,757,353	
振興事業	39	3,282,331,685	1,402,341,098
	40	3,720,873,178	1,517,160,601
	41	2,996,757,716	1,551,615,114
	42	2,713,759,596	1,594,337,542
	43	2,936,202,510	1,649,849,154
	39～43	15,649,924,685	7,715,303,509
	44	4,658,311,255	1,794,728,370
	45	3,835,090,173	2,068,586,503
	46	6,978,439,919	2,411,564,145
	47	6,041,924,374	3,306,207,104
48	6,647,248,541	3,784,979,670	
44～48	28,161,014,262	13,366,065,792	
39～48	43,810,938,947	21,081,369,301	
振興開発事業	49	11,211,001,600	6,914,924,100
	50	13,647,626,000	9,179,802,000
	51	16,800,158,000	11,737,719,500
	52	24,622,739,563	16,941,062,700
	53	32,983,610,453	23,109,334,863
	49～53	99,265,135,616	67,882,843,163
	54	39,124,020,651	27,510,513,000
	55	41,188,765,625	28,332,357,500
	56	43,303,157,800	29,638,713,000
	57	45,343,776,170	30,252,109,000
58	48,864,815,830	32,782,104,000	
54～58	217,824,536,076	148,515,796,500	
49～58	317,089,671,692	216,398,639,663	
振興開発事業	59	49,793,965,150	33,935,474,000
	60	51,849,983,000	34,332,258,991
	61	51,009,100,708	33,891,008,425
	62	60,782,646,734	39,753,774,734
	63	55,151,306,570	35,723,486,000
	59～63	268,587,002,162	177,636,002,150
	平成元	56,439,366,352	35,969,604,713
	2	56,829,241,056	36,574,125,220
3	61,180,018,685	38,928,879,855	
4	74,274,848,035	47,095,900,656	
5	85,653,402,357	54,492,575,488	
元～5	334,376,876,485	213,061,085,932	
59～5	602,963,878,647	390,697,088,082	
第○次振興開発事業	6	77,369,539,473	48,491,438,503
	7	100,964,567,361	62,052,910,804
	8	92,161,216,017	56,505,066,000
	9	80,440,199,369	50,252,505,600
	10	103,182,817,914	66,711,337,000
	6～10	454,118,340,134	284,013,257,907
	11	88,251,992,363	54,142,297,300
	12	87,698,988,812	52,750,434,000
	13	81,635,113,415	49,565,611,634
	14	68,017,870,719	43,017,535,999
15	62,083,736,967	40,534,894,844	
11～15	387,687,702,276	240,010,773,777	
6～15	841,806,042,410	524,024,031,684	
事業開発	16	62,476,475,111	40,476,222,536
	17	60,006,622,083	38,749,451,518
総計		1,949,153,364,412	1,243,544,560,137

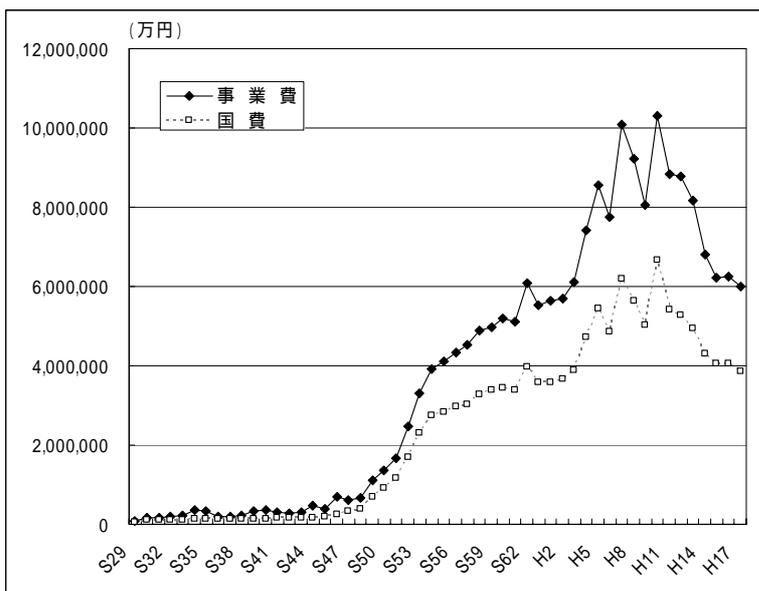


図-復興・振興・振興開発事業費の推移

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

3 . 自然資源等の現状

自然景観資源一覧

No.	分類	名称	関係市町村	
1	非火山性高原	百之台	喜界町	
2		大山	知名町	
3	非火山性孤峰	湯湾岳	宇検村、大和村	
4		井之川岳	徳之島町、知名町	
5	カルスト地形	田皆岬	知名町	
6	カッレンフェルド・ドリーネ群	下原のドリーネ群	天城町	
7		住吉のドリーネ群	知名町	
8		茶花のドリーネ群	与論町	
9	鍾乳洞	島中	喜界町	
10		小島の新洞	伊仙町	
11		銀河洞	伊仙町	
12		銀竜洞	伊仙町	
13		明神	伊仙町	
14		上喜念垂の穴	伊仙町	
15		上喜念北の穴	伊仙町	
16		小島の新洞	伊仙町	
17		暗川	伊仙町	
18		水連洞	知名町	
19		沖永良部洞	知名町	
20		昇竜洞	知名町	
21		白鳳洞	知名町	
22		魔水洞	知名町	
23		銀水洞	知名町	
24		天竜洞	知名町	
25		極楽洞	与論町	
26		赤崎鍾乳洞	与論町	
27		峡谷・渓谷	鹿浦川渓谷	伊仙町
28		滝	轟の滝	奄美市
29			マテリヤ滝	大和村
30			水神川滝	徳之島町
31			米川滝	徳之島町
32			堀切川滝(1)	徳之島町
33			堀切川滝(2)	徳之島町
34			阿場の滝	知名町
35	湖沼		耳付池	和泊町
36	湿原	住用	奄美市	
37	溺れ谷	焼内湾	宇検村	
38		大島海峡	瀬戸内町	
39		笠利湾	笠利町、龍郷町	
40	海成段丘	百之台	喜界町	
41	隆起サンゴ礁	中里～荒木の西	喜界町	
42		喜界島東南部	喜界町	
43		志戸桶～早町	喜界町	
44	砂浜・礫浜	笠利半島東海岸	奄美市	
45		仲子瀬崎	奄美市	
46		小宿	奄美市	
47		大浜海岸	奄美市	
48		奥勝湾	奄美市	
49		戸田海岸	大和村	
50		ホノホシ海岸	瀬戸内町	

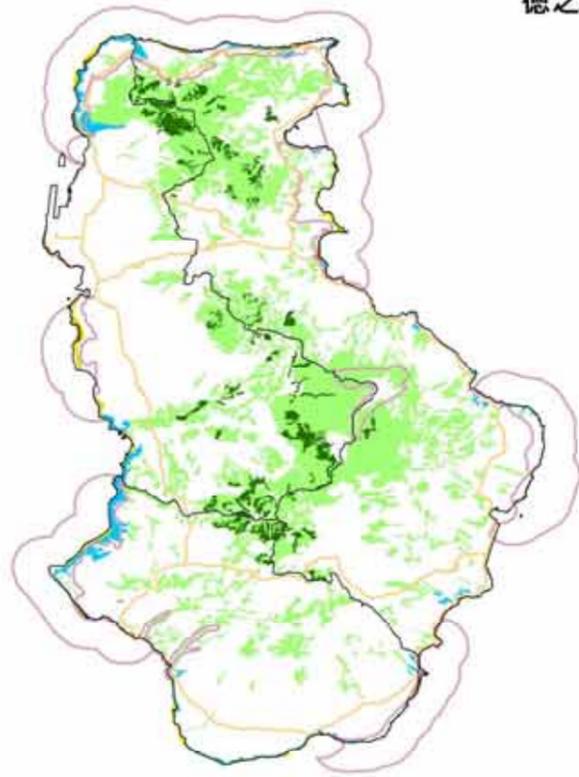
No.	分類	名称	関係市町村
51	砂浜・礫浜	山海岸	徳之島町
52		手々海岸	徳之島町
53		岡前	天城市
54		黒久浜	徳之島町
55		下久志海岸	徳之島町
56		諸田海岸	徳之島町
57		伊仙崎	伊仙町
58		内喜名浜	知名町
59		畦布	和泊町
60		喜美留海岸	和泊町
61		与論島西	与論町
62		百合が浜	与論町
63		砂嘴	内海の砂嘴
64	砂丘	喜念浜砂丘	伊仙町
65	海食崖	加計呂麻島東海岸	瀬戸内町
66		犬田布	伊仙町
67		田皆岬	知名町
68	波食台	むしろ瀬	徳之島町
69	岩礁	ウシジ浜	知名町
70	上記以外の際立った地形	隕石孔	龍郷町
71		ムシロ瀬	天城市
72		犬の門蓋	天城市
73		国頭岬	和泊町

出典：第3回自然環境保全基礎調査「自然景観資源調査」(環境庁)

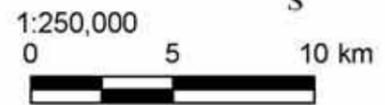
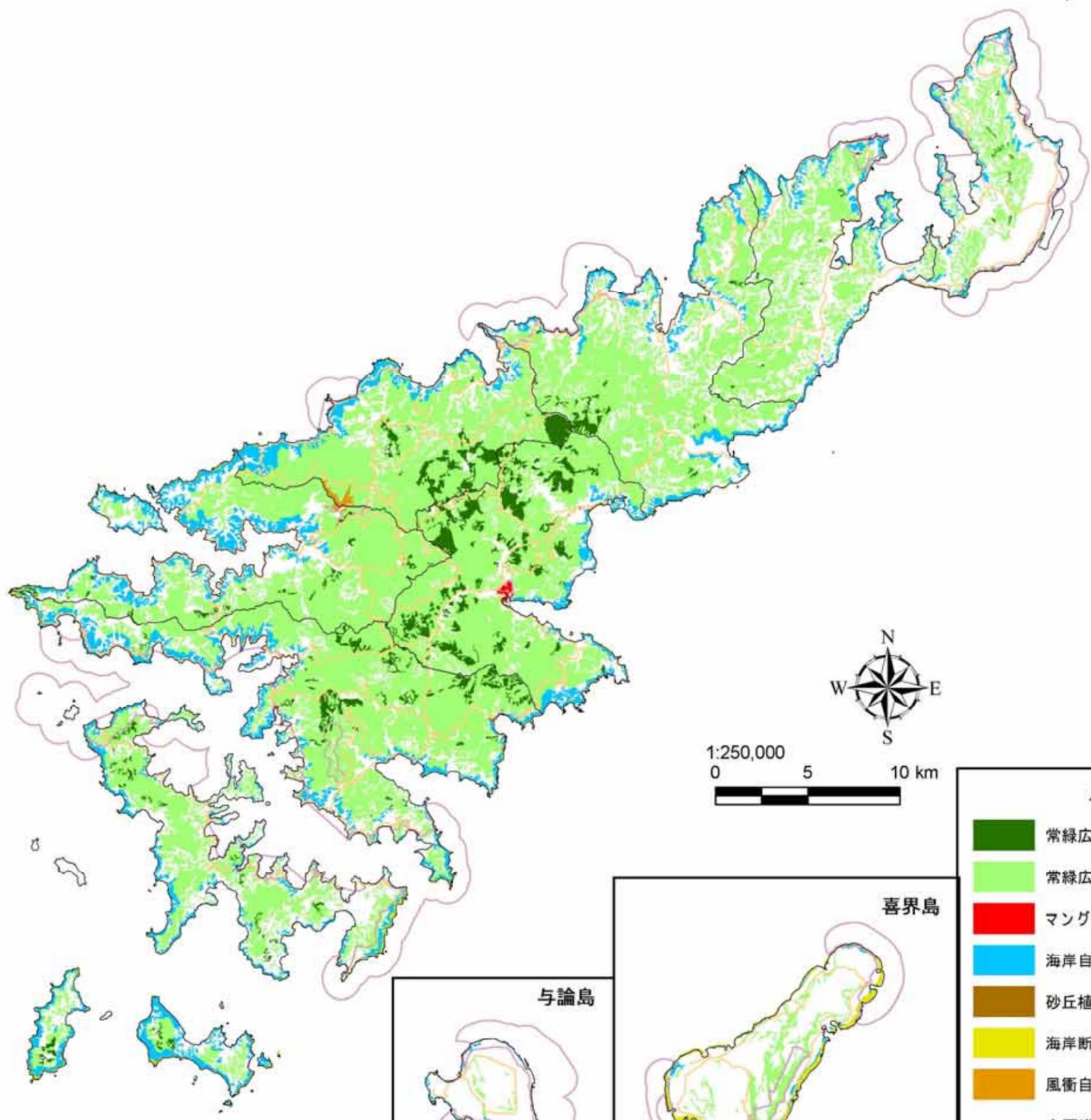
常緑広葉樹・海岸植生等の分布状況

奄美大島

徳之島



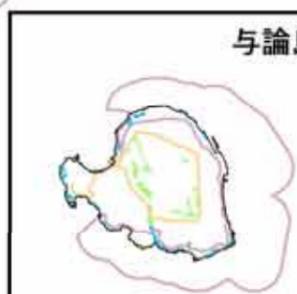
沖永良部島



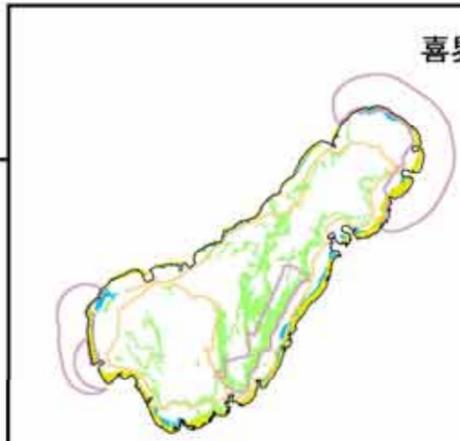
凡例

- 常緑広葉樹高木林 (樹冠大)
- 常緑広葉樹高木林 (樹冠小)
- マングローブ群落
- 海岸自然低木林～高木林
- 砂丘植生
- 海岸断崖地植生
- 風衝自然低木林
- 主要道路
- 国定公園

与論島



喜界島



世界遺産指標種*1一覧(動物)

■動物(11種)

*1:大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種など

*2:鹿児島県希少野生動物植物の保護に関する条例による指定希少野生動物植物

種名	分類群	この種が重要である意味	生息・生育する環境タイプ	分布		分布データ	RDBカテゴリー		国内希少種	天然記念物	県条例指定種	備考
				奄美	沖縄		鹿児島県	環境省				
アマミノクロウサギ	哺乳類	特異で原始的な形質を有すること、分布域がきわめて限定されていることから学術的に重要である。長い爪や臼歯の形態などに独特の特徴を持つ。1921年に動物としては特別天然記念物に指定され、1963年には特別天然記念物に指定された。	常緑広葉樹林	大島、徳之島		充実	危険I	危険IB	EN	国特天		
アマミトガネズミ	哺乳類	琉球列島の固有種であり、奄美群島のみは固有種とされる。さらに、赤色体の特徴から奄美大島のもとの徳之島のもとも別種である可能性が指摘されている。1972年に国の天然記念物に指定されている。	常緑広葉樹林	大島、徳之島		あり	危険I	危険IB	CR	国天		
ルリカケス	鳥類	樹洞のある大木が茂った常緑広葉樹天然林を中心に生息する。本種の近縁種は、ヒマラヤに生息しているインドカケス <i>G. lanceolatus</i> とされており、琉球列島の陸橋期以前の地史との関連が強く、遺存種としての価値が高い。また生態学的にも興味深い習性を持っている。種の保存法にも基づく国内希少野生動物植物種であり、国の天然記念物にも指定されている。	常緑広葉樹林	大島、加計呂麻、与路、請		あり	危険II	危険II	VU	国天		希少鳥類の中では広範囲に生息
オビトカガモドキ	爬虫類	常緑広葉樹の天然林や回復の進んだ二次林に生息し、石灰岩地にも出現する。種クワイトカガモドキの他の亜種とともに、中部琉球の島嶼間で細かく分化しつつ全体としては遺存性の高い系統群を形成していることから、学術的価値が高い。県の天然記念物に指定されており、県の条例により希少野生動物植物に指定されている。	常緑広葉樹林	徳之島		少ない(自然研ヒヤリング、基礎調査)	危険I	危険IB	VU	県天	○	必ずしも自然林を指
オットンガエル	両生類	常緑広葉樹の天然林や回復の進んだ二次林に生息する。沖縄島北部に生息するホルストガエルとともにきわめて遺存性の高い系統を構成しており、陸橋期以降の琉球列島の地史・古地理と強く結びついていると考えられる。また本種の繁殖生態は東アジア産のアカガエル科の中では特異で、この点でも高い学術的価値が認められる。県の天然記念物に指定されており、県の条例により希少野生動物植物に指定されている。	常緑広葉樹林等	大島、加計呂麻		あり	危険II	危険II	EN	県天		
イボイモリ	両生類	湿地や水場のある常緑広葉樹の天然林、二次林、草原等に生息する。本種はきわめて遺存性の高い種で、陸橋期以降の琉球列島の地史・古地理と強く結びついており、学術的価値が認められる。繁殖生態は東アジア産の属同生類の中では特異で、この点でも高い学術的価値が認められる。県の天然記念物に指定されており、県の条例により希少野生動物植物に指定されている。	常緑広葉樹林等	大島、加計呂麻、与路、徳之島		あり	危険I	危険II		県天	○	唯一沖縄諸島にも分布(イカガエル等と同じ)
リュウキユウアユ	魚類	水量が豊富で長い中流域を持ち、河口に湧く河川に生息する。赤土流入や水質悪化、堰堤等による生息地の分断、河口閉塞などが見られない、良好な河川の環境を指標する。きわめて遺存性の高い固有亜種で、陸橋期以降の琉球列島の地史・古地理と強く結びついていると考えられる。奄美大島の河川におけるキーストーン種であり、河川環境の保護対策を進める上でも重要な位置にある。県の条例により希少野生動物植物に指定されている。	河川	大島、加計呂麻		充実	危険I	危険IA	EN		○	
アマミルハネクワガタ・ウケジママルハネクワガタ	昆虫類	奄美大島と徳之島にはアマミルハネクワガタ(県版RDBで絶滅危険II類)が、請島にはウケジママルハネクワガタ(同I類)がそれぞれ生息する。湿潤でシイの大径木を有する森林に生息し、伐採による乾燥や乱獲のない環境が必要である。沖縄島、石垣・西表島、与那国島にそれぞれ近縁種が生息し、島嶼ごとに種もしくは亜種の分化が見られ、分類学の観点から高い学術的価値がある。ウケジママルハネクワガタは県の条例により希少野生動物植物に指定されており、瀬戸内町の天然記念物となっている。	常緑広葉樹林	大島・請・徳之島		少ない(基礎調査)	危険I・II				○	公表された分布データほとんどない。
アマミヤマジギ	鳥類	本種はユーラシアに広く分布するヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i> の亜種として記載され、その後別種として扱われている。生息状況や生態には未解明の部分が多く、分類学的・生態学的な観点から学術的価値が高い。種の保存法による国内希少野生動物植物種であり、保護増殖事業計画が策定されている。	常緑広葉樹林	大島、加計呂麻、徳之島		あり	危険I	危険IB	VU	○		
オーストンオオアカゲラ	鳥類	分布域が奄美大島に限定され、推定個体数も少ない。大木や朽木の多い高齢の常緑広葉樹天然林を中心に生息する。国内における種オオアカゲラの亜種の中でも最大で、羽色が著しく暗色であるなど、特殊化が進んでいると考えられ、生物進化の観点から学術的価値が高い。種の保存法に基づき国内希少野生動物植物種であり、国の天然記念物にも指定されている。	常緑広葉樹林	大島		あり	危険I	危険IB		国天		
オオトラツグミ	鳥類	樹冠がよく閉鎖した、林床の湿度が高い常緑広葉樹天然林のみに生息し、奄美群島の森林に生息する希少鳥類の中で分布が最も制限される。東アジアから東南アジアに分布するトラツグミの亜種とされるが、さえずりの違いから自然交雑の可能性はなく、独立種と考えるのが妥当とされる。種の保存法に基づき国内希少野生動物植物種で、国の天然記念物にも指定されている。	常緑広葉樹林	大島、加計呂麻		比較的充実	危険I	危険IA	CR	国天	○	

参考文献(動物):

環境省編(2002)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(鳥類)—、自然環境研究センター、278pp。
 環境省編(2002)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(哺乳類)—、自然環境研究センター、177pp。
 環境省編(2003)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(汽水・淡水魚類)—、自然環境研究センター、230pp。
 環境省編(2000)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック(爬虫類・両生類)—、自然環境研究センター、120pp。

世界遺産指標種一覧(植物)

■植物(11種)

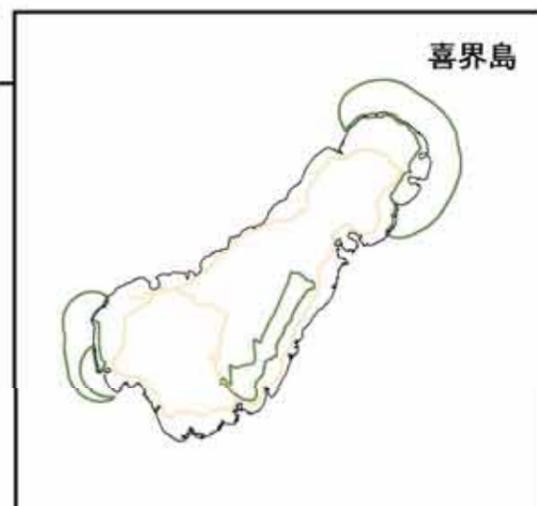
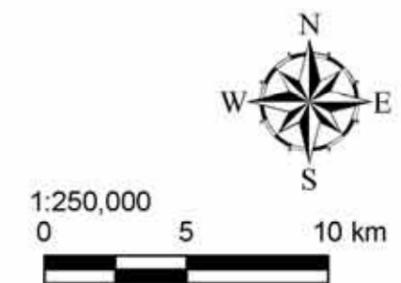
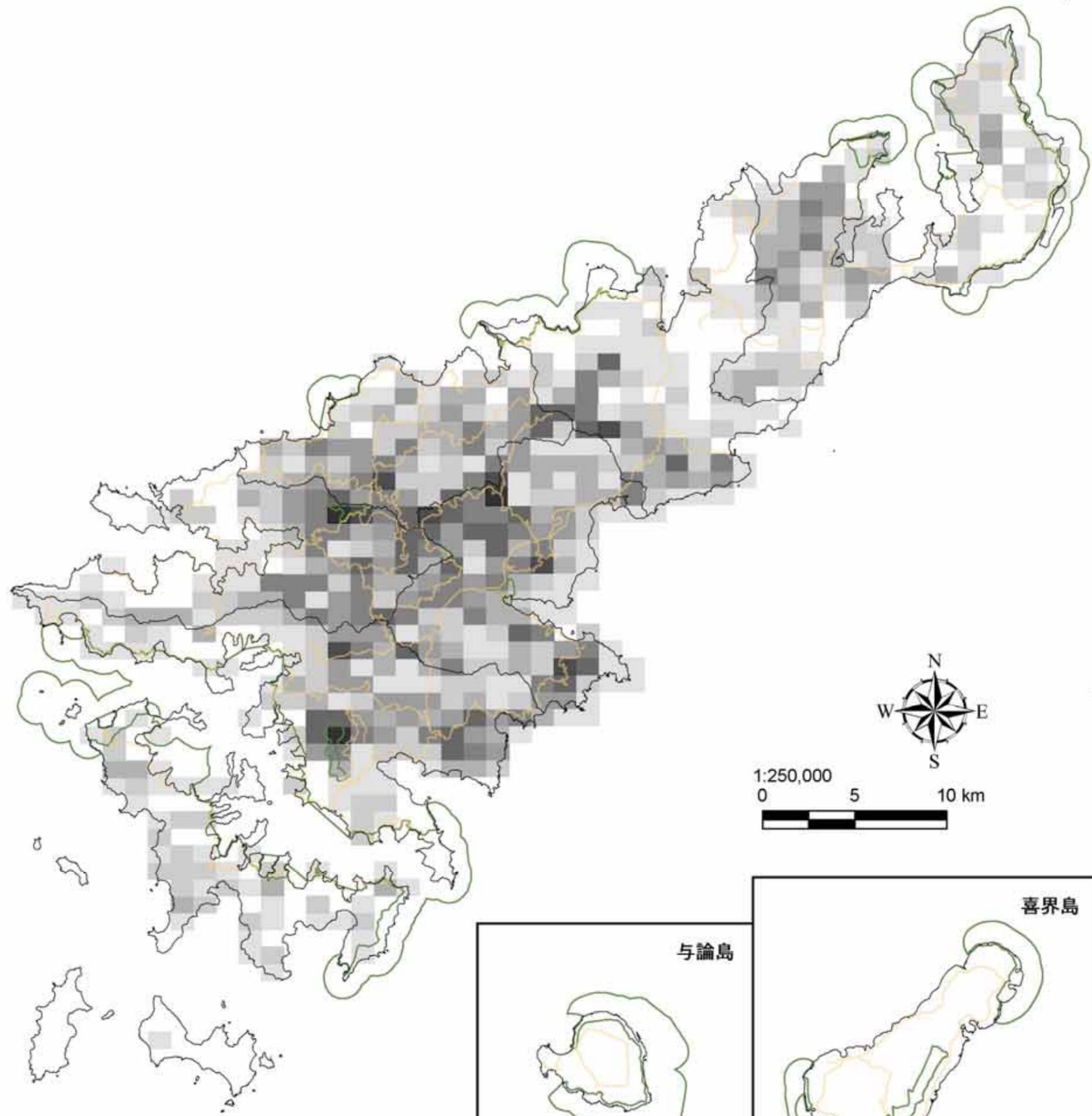
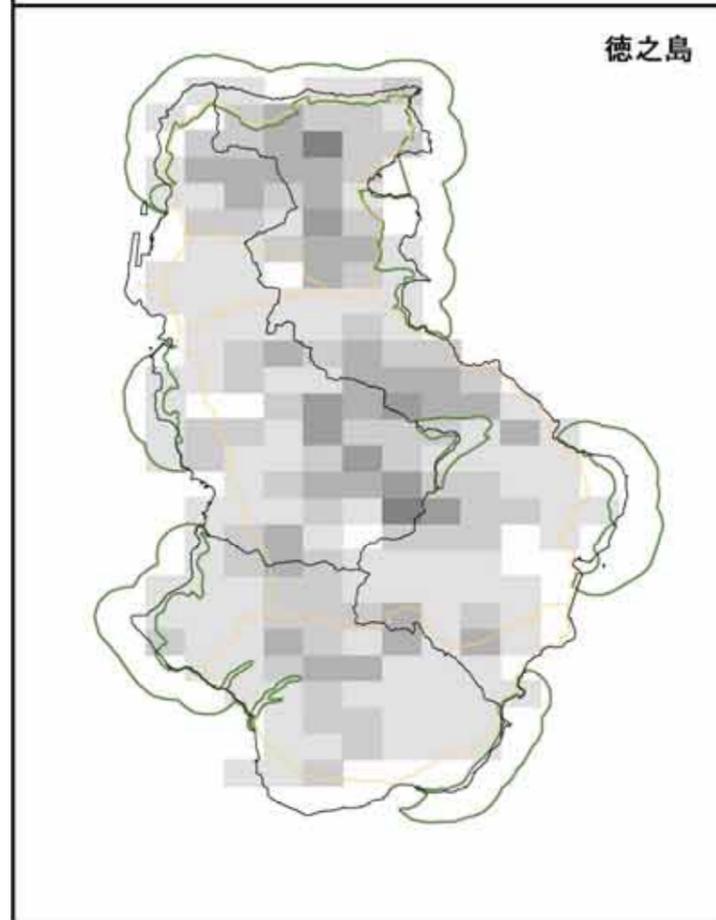
種名	分類群	この種が重要である意味	生息・生育する環境タイプ	分布		分布データ	ROBカテゴリー		国内希少種	天然記念物	県条例指定種	備考
				奄美	沖縄		鹿児島県	環境省				
カンアオイ類 (ミヤビカンアオイ、フジノカンアオイ、オオフジノカンアオイ、ヤシマカンアオイ、イ、グスクカンアオイ、ハツシマカンアオイ、シラユキカンアオイ、オオハカンアオイ、トリカミネカンアオイ、トクノシマカンアオイ、カケロマカンアオイ)	ウマノスズクサ科	常緑広葉樹林に生育する林床植物。奄美大島に6種2変種、徳之島に4種と、奄美群島地域からは日本の他地域に比べて異例に多くの固有種が報告されており、奄美群島の生物進化を示す植物群である。生長や分散が非常にゆっくりとした種群であるため、人為等の影響を受けやすい。ハツシマカンアオイは県の条例により希少野生動物植物に指定されている。	常緑広葉樹林	大島、加計呂麻、徳之島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険II, 危険III, 準危険I, なし				○	
アマミテナンシヨウ(オオアマミテナンシヨウ含む)	サトイモ科	常緑広葉樹林に生育する林床植物。日本のテンナンシヨウ属の中では原始的な形態を持つもので、奄美/沖縄地域と大陸との古い時代の関係を示す遺存的な固有種と思われる。	常緑広葉樹林	大島、与路島、徳之島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険I	危険I				
クスノハカエデ	カエデ科	南西諸島に固有な常緑性高木で、本種の優占する林は隆起石灰岩風化土壌に発達する。常緑全葉の葉を有しており、日本産のカエデ類の中では特異な存在。	隆起石灰岩風化土壌	与論島、沖永良部	伊是名、渡名喜、沖縄島、久米島	あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	準危険II	危険II				喜界島では50年ほど前に採集された後、記録されていない。
アマミカジカエデ	カエデ科	谷沿いの湿潤な場所を好む落葉性木本。奄美群島の固有植物には暖温帯系の落葉樹が多く含まれるが、これらは古い大陸とのつながりを示す植物群の可能性がある。その代表的なものとして選定。ごく最近に、新種として報告された。	谷沿いの湿潤な場所を好む落葉樹	大島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	なし	なし				名寄集落近くに1集団が知られる。
ワダツミノキ	クロタキカズラ科	一昨年新種として報告されたばかりの落葉性木本である。生育地周辺は落葉樹の多い特異な地域であるため、落葉樹の固有種を代表するものとして選定した。	生育地周辺は落葉樹の多い特異な地域	大島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	なし	なし				2004年に新種として報告された。
アマミクササジサイ	ユキノシタ科	熱帯地域の川岸の環境に適応した深流型植物である。住用川流域に奄美固有の種が多く知られている。その代表的なものとして選定した。深流や川沿いの湿った岩場などに生育している。	深流、川沿いの湿った岩場	大島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険I	危険I				道路脇の湿った岩場にも生育が見られるが確認されている集団は数カ所である
マルハハタケムシロ	キキョウ科	南西諸島の岩石海岸を特徴付ける固有種のひとつ。沖縄の集団は絶滅したと考えられている。近縁の種は南半球のオーストラリアに見いだされていて、南半球との生物地理的な関係を示す重要な種。	海岸	大島	沖縄の集団は絶滅したと考えられている	あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険I	危険IB				大島に4集団が知られているが長手久集団は現状が確認できない
オオシマノジギク	キク科	海岸に生育する奄美諸島の固有種。南下した暖温帯系の植物集団が島嶼部に取り残され、亜熱帯環境へ適応分化した固有種の代表的な例と考えられる。	海岸	大島、喜界島、徳之島、沖永良部島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	準危険II	なし				与論島の集団は人為的な移植によるものと推定される。
オキナワギク	キク科	南西諸島の岩石海岸を特徴付ける固有種のひとつ。隆起石灰岩地などの海岸の岩場に生育する。南西諸島中部の固有種。島間で遺伝的分化が起こっており、特に奄美大島集団は徳之島・沖縄島集団とは遺伝的に隔離されている。	海岸(隆起石灰岩地など)	大島、徳之島	沖縄島	あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険II	危険II				
ヒメスイカズラ	スイカズラ科	南西諸島の岩石海岸を特徴付ける固有種のひとつ。隆起石灰岩上に生育する常緑的なつる性低木。	隆起石灰岩の海岸	徳之島	沖縄島、宮古島、石垣島、与那国	あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険I	危険IB				徳之島(鹿浦)に1集団が生育する
ウケユリ	ユリ科	系統関係は明らかではないが、固有度の高い種である。欧米にて園芸品種として改良された多くのユリの親として用いられた。古い時代に隔離された島嶼環境で遺存的に生き残ってきたものと推定される。	古い地層の場所以出現	大島(漢湾岳)、請島、加計呂麻島		あり(堀田, 2004, 環境省 RDB調査)	危険I	危険IA				採取の影響を受け残っている集団、個体は少ない

参考文献(植物):

堀田満(2002)奄美の植物世界と人々。野生生物と地域社会、昭和堂。
 堀田満(2003)九州南部から南西諸島地域での植物の進化-隔離と分断の生物地理。分類 3(2):77-94
 堀田満(2004)奄美群島の希少・固有植物種の分布地域について。鹿児島県立短期大学紀要 55: 1-108
 Masayuki Maki (2001) Genetic differentiation within and among island populations of the endangered plant *Aster miyagi* (Asteraceae), an endemic to the Ryukyu Islands. Am. J. Bot. 88: 2189-2194.
 堀田満ほか(1996)西南日本の植物雑記III。九州から南西諸島にかけてのノジギク類の分布と分類。植物分類。地理 47(1): 91-104。
 堀田満(2001)奄美の希少・固有植物と絶滅問題。奄美の豊かな発展のための学際的研究-奄美群島の学際的研究-奄美群島の学際的研究-奄美群島の学際的研究-奄美群島の学際的研究の構築-。41-56p。鹿児島大学。
 日高優子・堀田満(2001)奄美の絶滅危惧植物マルハハタケムシロとオキナワギクの繁殖様式とその保護。奄美の豊かな発展のための学際的研究-奄美群島の学際的研究の構築-。41-56p。鹿児島大学。
 鹿児島県環境生活部環境保護課(2003)鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動物植物 植物編。鹿児島県環境技術協会。
 林一彦(1983)日本の自生ユリIII。奄美大島におけるウケユリの自生環境。植物地理。分類研究 31(2): 111-119

世界遺産指標種(動物)のメッシュ別分布種数

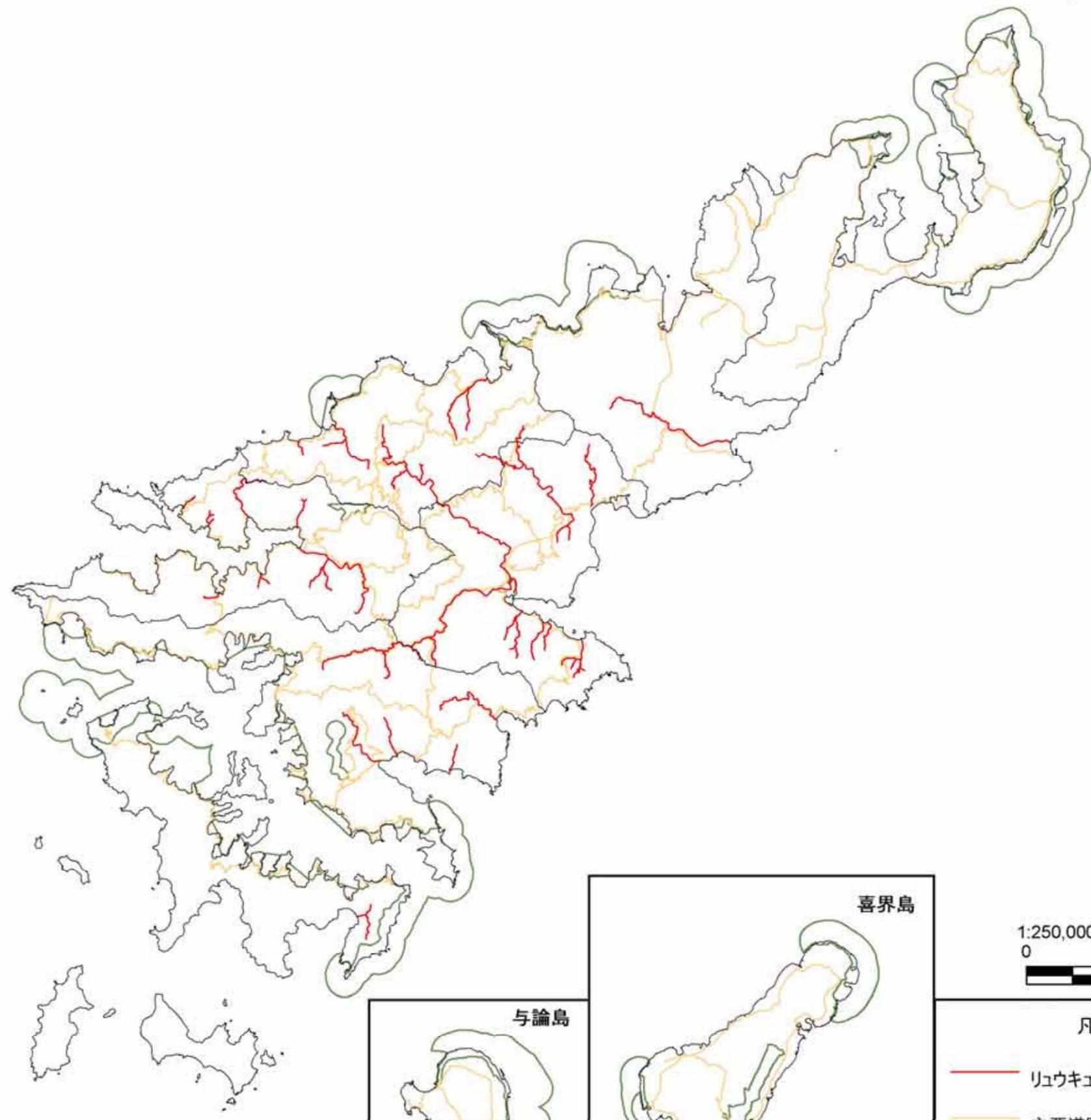
奄美大島



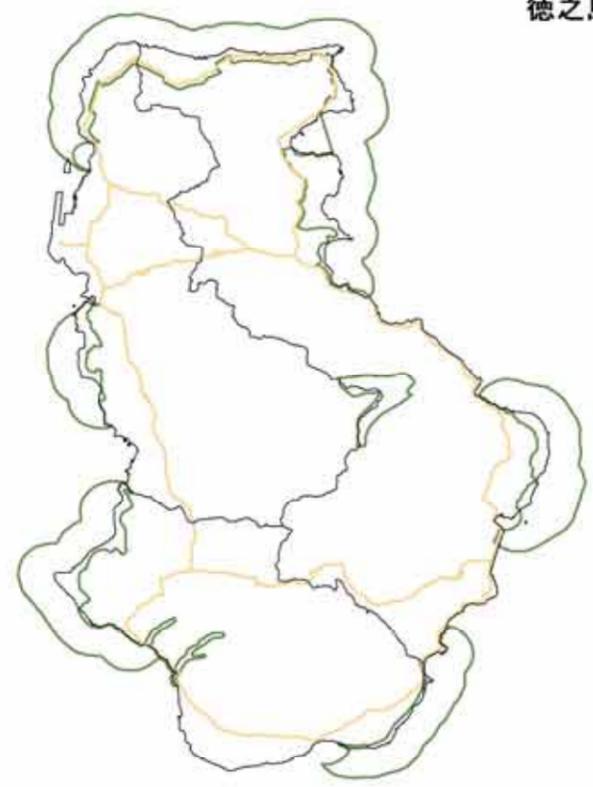
凡例

動物指標種数

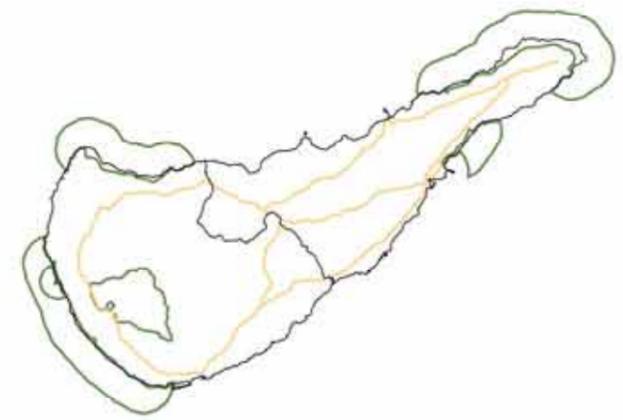
8種	8種
7種	7種
6種	6種
5種	5種
4種	4種
3種	3種
2種	2種
1種	1種
主要道路	主要道路
国定公園	国定公園



徳之島



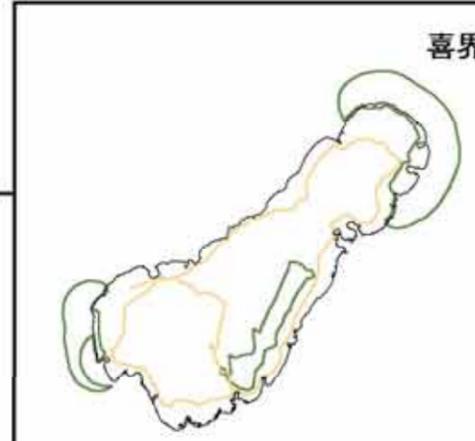
沖永良部島



与論島



喜界島

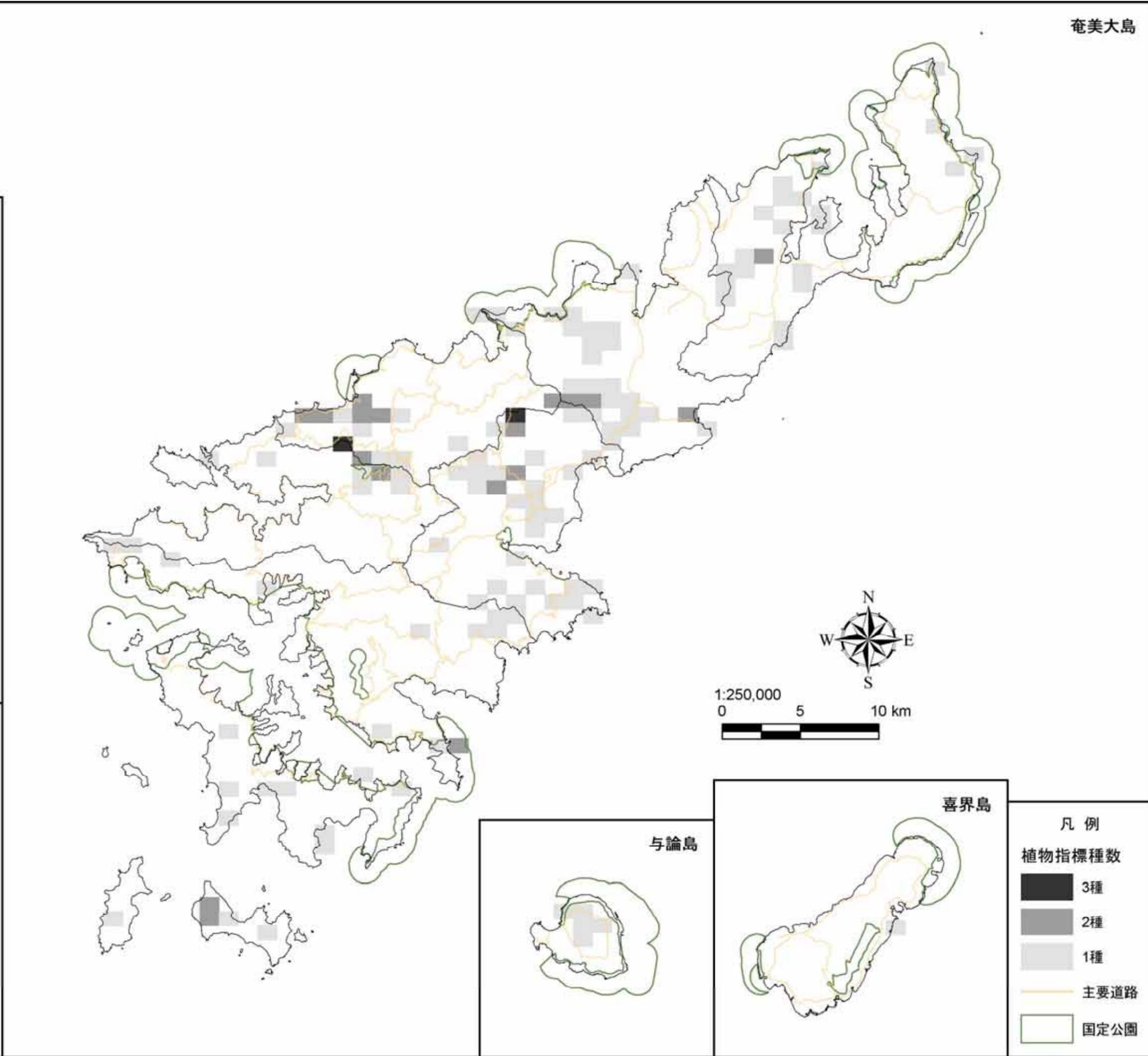
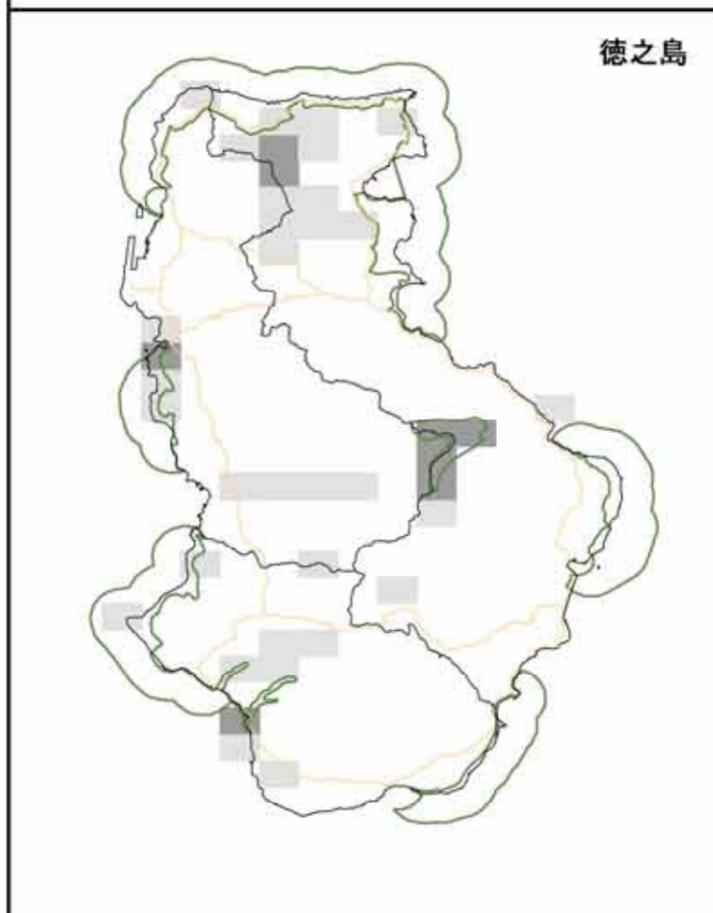


凡例

- リュウキュウアユが生息する河川
- 主要道路
- 国定公園

世界遺産指標種(植物)のメッシュ別分布種数

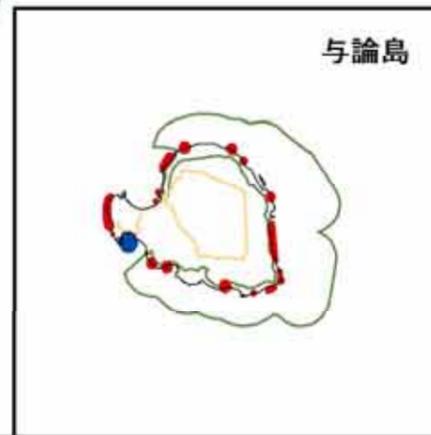
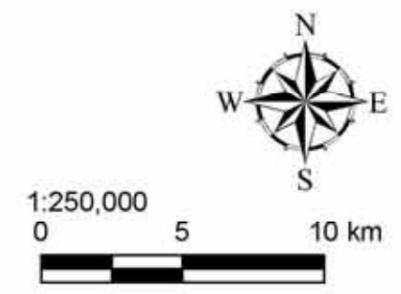
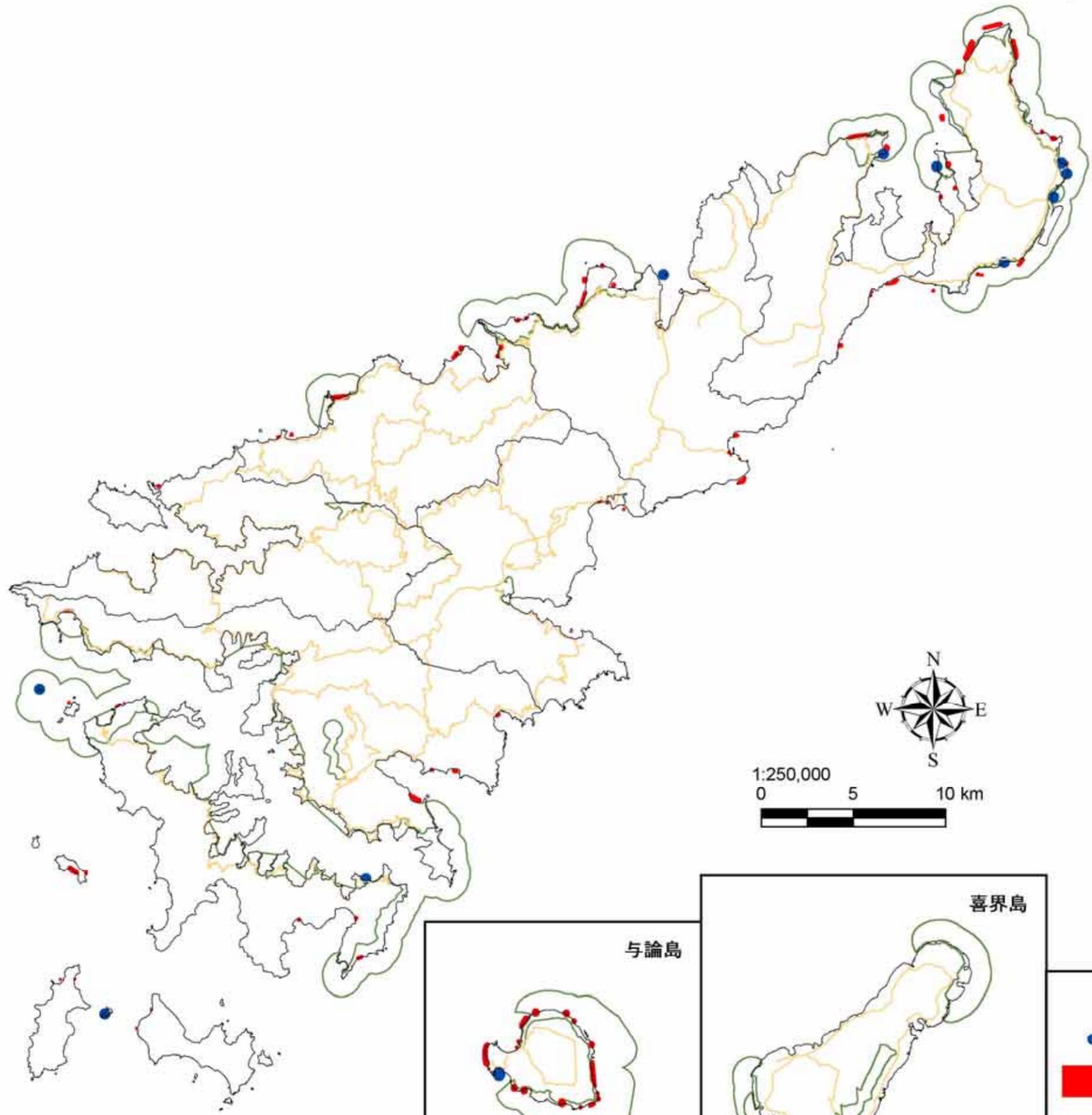
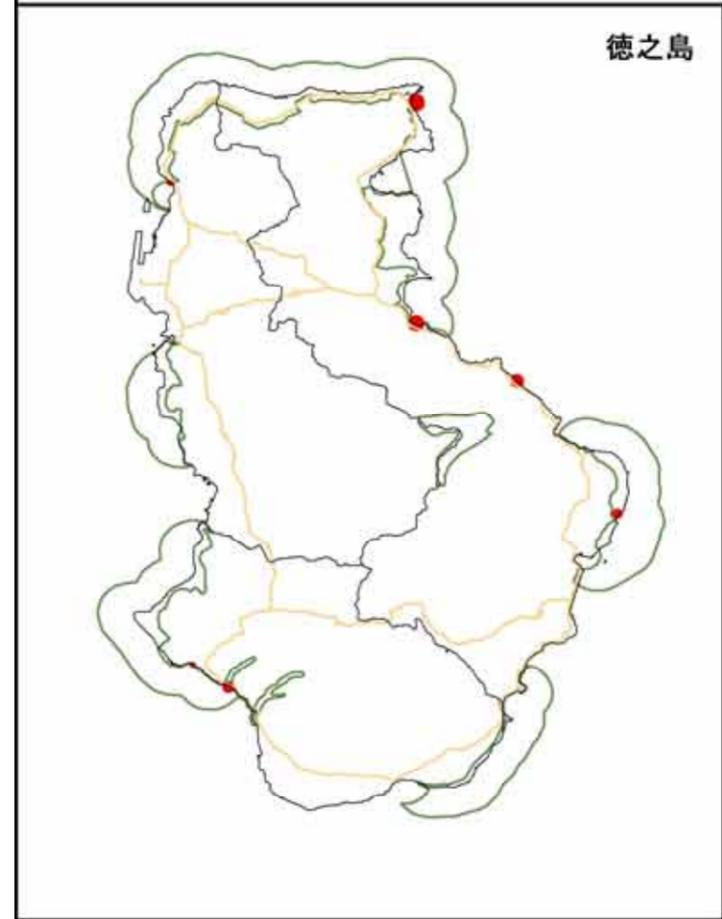
奄美大島



凡例

植物指標種数

■ (Black)	3種
■ (Dark Gray)	2種
■ (Light Gray)	1種
— (Yellow line)	主要道路
□ (Green outline)	国定公園



- 凡例
- 海鳥繁殖地
 - ウミガメ上陸地点
 - 主要道路
 - 国定公園

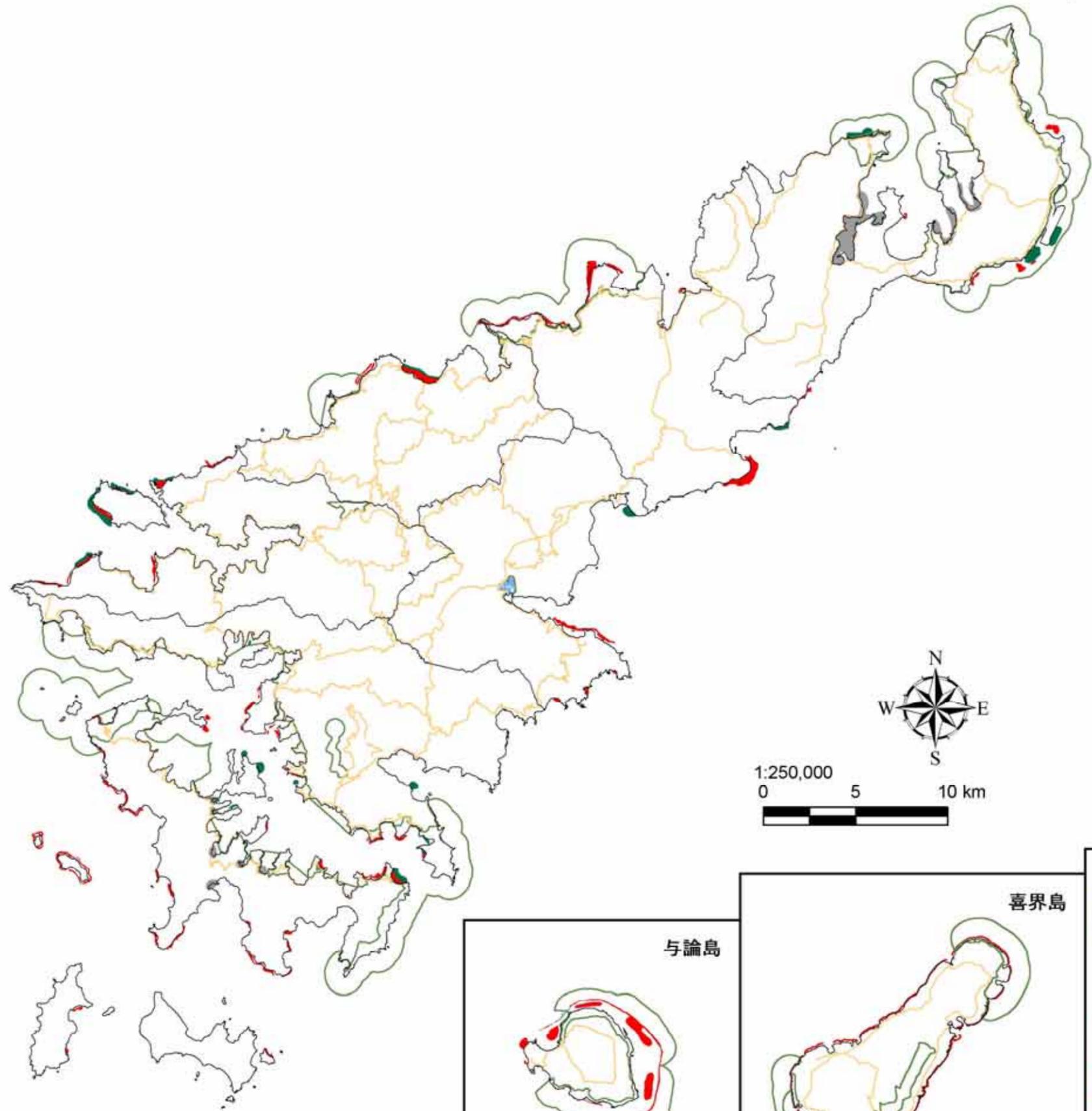
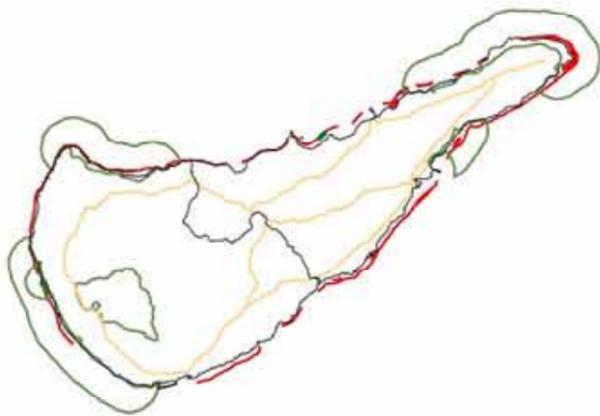
サンゴ礁・干潟・マングローブの位置図

奄美大島

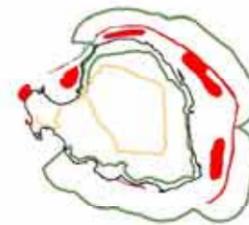
徳之島



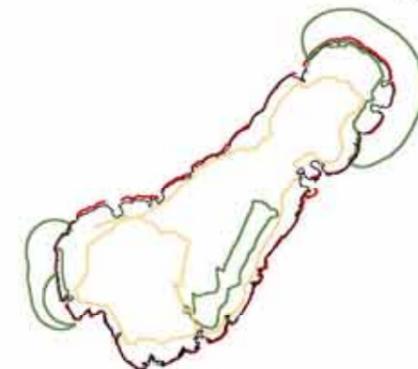
沖永良部島



与論島



喜界島



- 凡例
- マンングローブ
 - 干潟
 - サンゴ礁被度
 - 50%以上
 - 5~50%
 - 主要道路
 - 国定公園

地形形成過程を示す要素

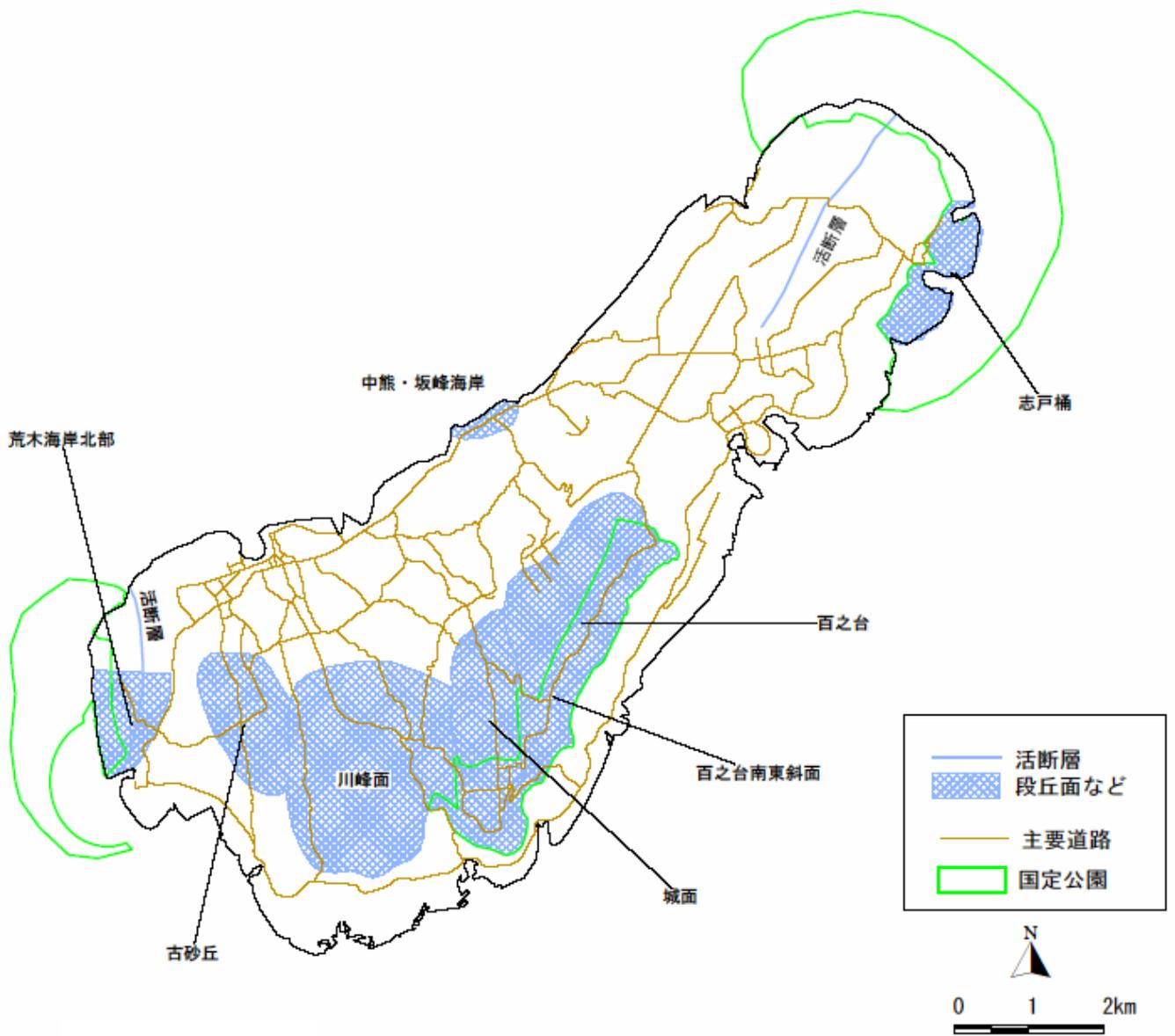
(1) 喜界島

重要性

- ・奄美群島の中では最も「若い島」であり、最終間氷期（12～13 万年前）以降に急速に隆起し、その隆起速度は世界の地殻変動でも最高クラスである。
- ・通常は海底下に存在するため他地域では研究が進んでいない最終氷期内亜間氷期の海岸線をはじめ、近過去に形成された海岸段丘や隆起サンゴ礁が狭い範囲に存在し、よく研究されている。近年、地球温暖化の影響等で重要視されている、近過去の気候変動史等の研究や地震・地殻変動等の研究に際して注目されている。

表 - 喜界島の重要性

地名	重要性
百之台面 城久面 川嶺面	<ul style="list-style-type: none"> ・時代的に古く、標高の高い方から順に「百之台面」、「城久面」、「川嶺面」。 ・隆起速度（年間約2mm）はバブアニューギニアのヒュオン半島、カリブ海小アンチル諸島のバルバドス島と並び世界でも最高クラス。 ・最終間氷期以降の各亜間氷期の海岸段丘が狭い範囲に存在し、各時期の段丘面が詳しく調べられている。
荒木海岸北部	<ul style="list-style-type: none"> ・活断層を伴う割れ目にできた、時代の異なるサンゴ礁段丘や、同時海水面が堆積面と浸食面という異なる時期に生成された堆積物からなることが示されたり、現生サンゴ礁の離水直後の初期カルスト幼児期の地形が確認できる。
中熊・坂峰海岸	<ul style="list-style-type: none"> ・典型的な隆起裾礁群。 ・喜界島の海岸沿いには同様の隆起サンゴ礁が鉢巻状に存するが、ここでは陸地から海岸までライン沿いにボーリングコアが採取され、現生サンゴ礁形成史の詳しい解析が実施されている点で学術的に重要。
志戸桶海岸	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の中熊・坂峰海岸と同様に典型的な隆起サンゴ礁であり、かつ中熊・坂峰海岸と同様の詳しい調査が実施されている。
川嶺面西側の古期砂丘	<ul style="list-style-type: none"> ・亜氷期の古期砂丘。 ・この古期砂丘中の古土壌から嚙歯類の歯の化石が見つかっており、現在の奄美地方に分布する嚙歯類の系統解明に使用可能かもしれない。
百之台から南東斜面を経て海岸近くまでの急傾斜地	<ul style="list-style-type: none"> ・喜界島で唯一のまとまった樹林（黒糖生産のための火力として、過去の強度な伐採による植生遷移が幼樹林（アカギ林）で停滞している）が成立している。



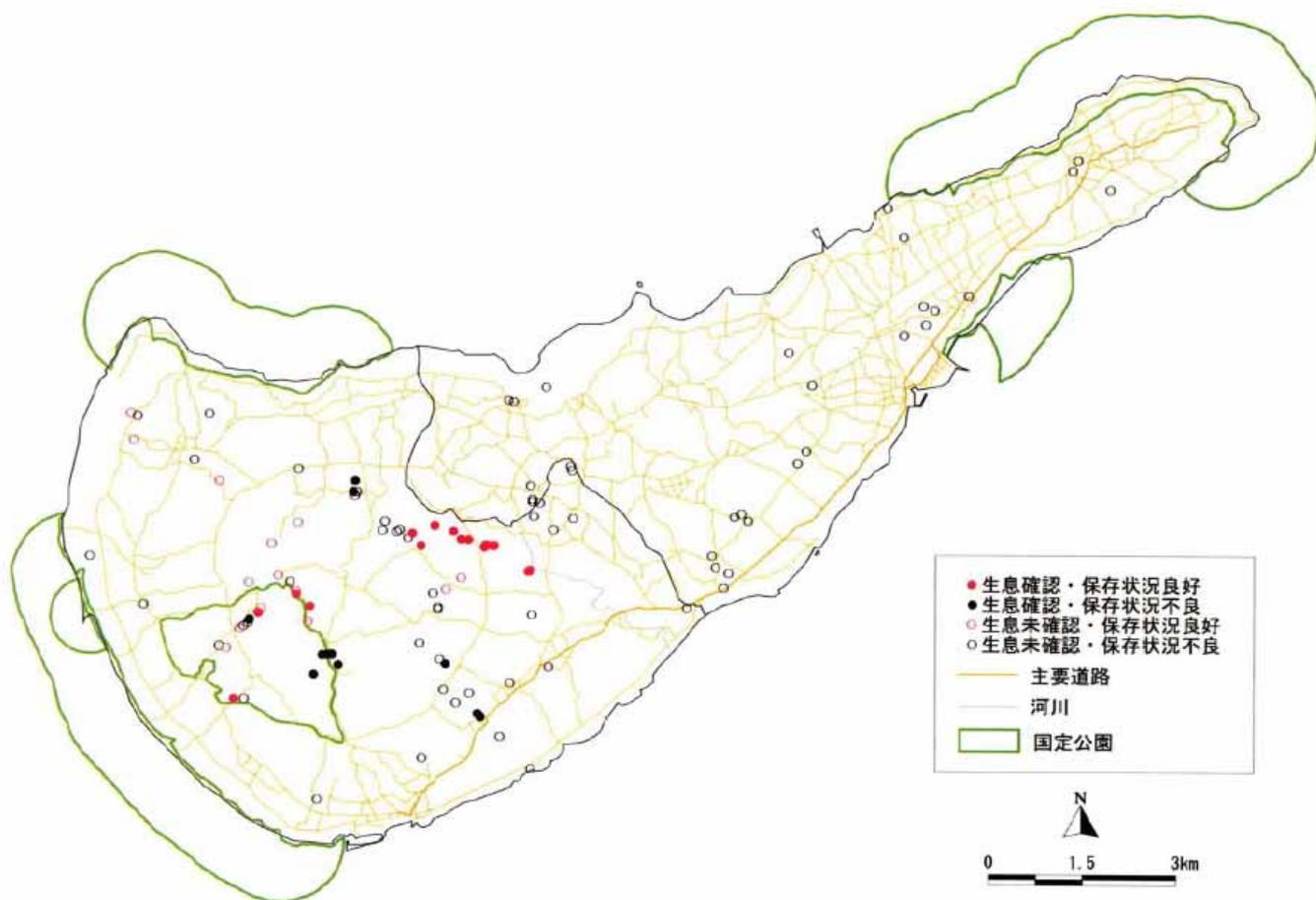
喜界島のサンゴ礁隆起状況を示す地形要素

出典：奄美群島重要生態系地域調査 第7回学術検討会資料

(2) 沖永良部島

重要性

- ・島内南西部に位置する大山を中心として、80 万年前以降の琉球層群よりなる段丘面が同心円状に連続的に分布している。
- ・大山では狭い範囲に150 以上の鍾乳洞が発達している。最大の大山水鏡洞は国内で2 番目の大きさである。
- ・これらの洞窟には、洞穴性コウモリ類であるリュウキュウコビナガコウモリ（環境省版RDB で絶滅危惧 B 類）、オリイコキクガシラコウモリ（同 類）が生息している。両種とも洞穴で休息・出産・育児を行い、周囲の森林で採食するため、鍾乳洞と森林がセットになった環境の指標生物である。
- ・洞窟群の学術的な調査はあまり進んでいないが、民間団体の地道な調査により、徐々にその状況が判明しつつある。
- ・離島に位置する多数の未調査の洞窟群であり、今後総合的な学術調査が行われれば、他地域では見られない大きな学術的発見が得られる可能性がある。



沖永良部島における鍾乳洞の分布とコウモリの生息状況

出典：奄美群島重要生態系地域調査 第7回学術検討会資料

4 . 歴史・文化

指定文化財

国

名 称	所 在 地	指定年月日	種 別	所有者・管理者
アマミノクロウサギ	奄美大島・徳之島	昭 38. 7. 4	特別天然記念物	鹿児島県
ルリカケス	奄美大島・徳之島	大 10. 3. 3	天然記念物	〃
神屋・湯湾岳	奄美市住用町・宇検村・大和村	昭 43.11. 8	〃	農林水産省
アカヒゲ	奄美大島・徳之島	〃 45. 1.23	〃	所在市町村
オカヤドカリ	南西諸島	〃 45.11.12	〃	〃
オオトラツグミ	奄美大島	〃 46. 5.19	〃	〃
カラスバト	鹿児島県	〃 46. 5.19	〃	〃
オーストンオオアカゲラ	奄美大島	〃 46. 5.19	〃	〃
トゲネズミ(アマミトゲネズミ)	奄美大島・徳之島	〃 47. 5.15	〃	〃
ケナガネズミ	奄美大島・徳之島	〃 47. 5.15	〃	〃
諸鈍芝居	瀬戸内町諸鈍	〃 51. 5. 4	重要無形民俗文化財	諸鈍芝居保存会
秋名アラセツ行事	龍郷町秋名	〃 60. 1.12	〃	秋名ヒラセマンカイ保存会
宇宿貝塚	奄美市笠利町宇宿	〃 61.10. 7	史跡	奄美市
与論十五夜踊	与論町字城	平 5.12.13	重要無形民俗文化財	与論十五夜踊り保存会
泉家住宅	奄美市笠利町宇宿	〃 6. 7.12	建造物	泉 一郎

県

名 称	所 在 地	指定年月日	種 別	所有者・管理者
南洲流謫跡	龍郷町龍郷	昭 30. 1.14	史跡	龍 まさ子
和泊町の世之主の墓	和泊町内城	〃 41. 3.11	〃	和泊町
昇龍洞	知名町住吉吉野平川	〃 42. 3.31	天然記念物	知名町
油井の豊年踊り	瀬戸内町油井	〃 58. 4.13	無形民俗文化財	油井豊年踊り保存会
上平川の大蛇踊り	知名町上平川	〃 59. 4.18	〃	上平川大蛇踊り保存会
沖永良部島下平川の大型有孔虫化石密集産地	知名町下平川	〃 62. 3.16	天然記念物	宮當 重夫
犬田布貝塚	伊仙町犬田布	平元. 3.22	史跡	福宮スミエ・伊仙町教育委員会
カムイヤキ窯跡	伊仙町阿三	〃 3. 3.22	〃	重田源孝・伊仙町教育委員会
城間トフル墓群	奄美市笠利町万屋	〃 5. 3.24	〃	奄美市教育委員会
徳之島井之川夏目踊り	徳之島町井之川	〃 13. 4.27	無形民俗文化財	井之川夏目おどり保存会
住吉暗川	知名町住吉前間当り	〃 13. 4.27	天然記念物会	住吉集落・知名町教育委員
奄美大島のノ口関係資料	奄美市笠利町 , 宇検村 , 瀬戸内町, 奄美市名瀬	〃 15. 4.22	有形無形文化財	所在市町村
イボイモリ	奄美大島・徳之島	〃 15. 4.22	天然記念物	所在市町村
イシカワガエル	奄美大島	〃 15. 4.22	天然記念物	所在市町村
オビトカゲモドキ	徳之島	〃 15. 4.22	天然記念物	所在市町村
大和浜の群倉	大和村	〃 16. 4.20	建造物	大和村教育委員会
オットンガエル	奄美大島・加計呂麻島	〃 17. 4.19	天然記念物	所在市町村
喜界島のノ口関係資料	喜界町中央公民館	〃 18. 4.21	有形民俗文化財	喜界町・新山林

市町村

期日：平成 18 年 11 月 1 日

市町村 種類	奄美 市	大和 村	宇検 村	瀬戸 内村	龍郷 町	喜界 町	徳之 島町	天城 町	伊仙 町	和泊 町	知名 町	与論 町	計
総 数	126	42	10	39	9	44	42	30	34	32	22	19	449
有形文化財	42	0	4	28	4	20	8	13	4	13	1	11	148
無形文化財	5	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7
民俗文化財	25	42	3	5	1	10	31	16	8	11	7	0	159
記 念 物	54	0	2	6	4	14	3	0	22	8	14	8	135

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

文化的景観

文化庁が平成 12 年度から平成 15 年度にかけて実施した「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」では、全国的に「文化的景観」の所在・現状を把握したうえで、全国で 180 箇所の重要地域を選択している。奄美群島においては「小湊集落と畑地のソテツ」、「金見のソテツ群と畑」、「沖永良部島のタイモ畑」、「龍郷町の垣漁」の 4 件が重要地域として選択されている。

当該調査における文化的景観の定義と、奄美群島における文化的景観（重要地域）の概要は下記の通りである。

文化的景観の定義

農山漁村地域の自然、歴史、文化を背景として、伝統的産業及び生活と密接に関わり、その地域を代表する独特の土地利用の形態又は固有の風土を表す景観で価値の高いもの。

こみなとしゅうらく はたち

小湊集落と畑地のソテツ

鹿児島県名瀬市小湊



ソテツで縁取られた海岸の畑地



様々な作物が栽培されている畑地

【概要】

奄美大島の名瀬市小湊集落の海岸には、幅 200～300m、高さ 10m の砂丘が延長 1 km にわたって広がっている。砂丘の面積は約 30ha のうちの約 15ha が畑地で、方形に区画された境界部にソテツが列植されている。

ソテツは畑地の境界木であるだけでなく、防風の機能を持ち、その枝葉は肥料や燃料としても活用されてきた。加計呂麻諸純の林家所蔵『遺言記録』（天保 2 年、1831）には、飢饉の際の非常用食料としてソテツの植栽に取り組むべきであると記されている。現在植栽されているソテツの中には、樹齢が 100 年を超えると推定されるものもあり、シマウタ（奄美地方の古謡）にも「ソテツぬキャラさや古見金久」（「ソテツが美しい小湊」の意）と謡われ、江戸時代には現在のような畑地景観が定着していたことを窺わせる。

海岸部の小湊集落とソテツの境界木を伴う畑地は、この地域に独特の風土と結びついた文化的景観を示している。

【現況】

畑地としての耕作は継続しており、ソテツは境界木、防風林、肥料源として機能していることから、伝統的な畑地景観が良好に保たれている。海浜部は海水浴場として活用されており、近年、この地域は美しい風景写真の撮影地としても知られるようになった。その一方で、平成 7 年（1995）に開校した学校施設により、約 1 ha の畑地が失われた。

【将来への展望】

現在、上記した学校施設の拡張計画が検討されており、畑地景観への影響が懸念される。また、畑地を含む砂丘に所在する小湊フワガネク（外金久）遺跡の保存のため、平成 13 年度（2001）には小湊集落の住民等から成る保存会が発足し、遺跡の保護と一体となった文化的景観の保護が期待される。

かなみ ぐん はたけ

金見のソテツ群と畑

鹿児島県大島郡徳之島町金見



金見崎の丘陵に広がる畑地



ソテツの垣根に囲まれた畑地

【概要】

金見集落は徳之島北端の天城岳（標高533m）の山麓に位置し、集落の北側にはソテツの群植を伴った畑地が存在する。ソテツの植栽は畑地区画の境界を示すとともに、防風・防潮の機能を果たしてきた。江戸時代以降、畑地では薩摩藩の政策によりサトウキビの栽培が促進されてきた。

畑地の周囲に群植されたソテツは飢饉の際の非常食としても利用されてきたもので、この地域に独特の風土と結びついた人々の生活と生業の在り方を物語っている。

【現況】

現在、40区画程度の畑地において耕作が継続的に行われている。徳之島では耕地改良が進められてきたが、この地域はその対象となっていないため、旧来の景観が良好に保たれている。また、この地域は奄美群島国立公園の区域にも含まれており、昭和40～50年代には観光地として賑わったが、近年は観光客が減少している。なお、金見集落の海岸部には、天然記念物のオカヤドカリが生息している。

【将来への展望】

現在、景観に影響を与える計画は無く、金見集落の住民が清掃等の維持活動を継続して行っている。また、近年、地域住民の間に自然環境保全の機運が高まっており、今後も良好な景観の維持が期待される。

おきのえらぶじま ばたけ

沖永良部島のタイモ畑

鹿児島県大島郡知名町赤嶺



タイモが栽培されている畑地



タイモの収穫作業

【概要】

沖永良部島の南東部に位置する大山の麓の赤嶺地区には、タイモ（田芋）畑が広がっている。赤嶺地区の周辺には島内最大の河川である余多川が流れ、湧水も豊富であったことから、長期間稲作が行われてきた。タイモはサトイモの一種で、栽培が比較的容易であることから、元来は水田の隅に自家用として栽培されてきたものである。

水田が畑地へと転換されたり、土地改良事業が実施されたりして稲作が行われなくなり、現在ではもともと水田であった農地を畑地へと変え、タイモが栽培されている。これらのタイモ畑は、沖永良部島で稲作が行われていた頃の名残を示す景観としても貴重である。

【現況】

タイモは年間を通じて作付け・収穫が行われ、現在は自家用ではなく、ほとんどが出荷用に栽培されている。昔からの景観を維持しているタイモ畑はわずかにこの地域に残るのみとなっているが、今なお良好な景観を維持している。周辺地域では土地改良事業が進み、整然と区画された農地が展開している。

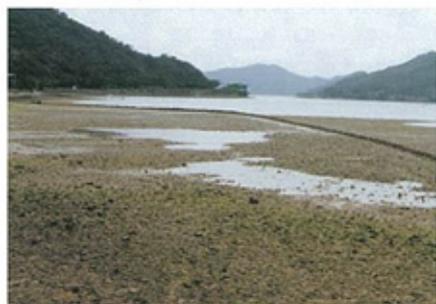
【将来への展望】

この地域においては、立地条件等から大規模な土地改良事業が実施される可能性は低く、今後とも良好な景観を維持することが可能であると考えられる。しかし、栽培作物の転換等によりタイモの栽培が継続されない恐れもある。これに対して知名町ではタイモを特産品に位置づけ、タイモを素材とした料理や菓子作り等のコンテストを開催するなど、タイモ栽培の継続を支援する施策を進めている。

たつごうちょう かきりょう

竜郷町の垣漁

鹿児島県大島郡龍郷町



竜郷湾の入り江に築かれた垣



半円形を描く垣

【概要】

あまみ おおしま
奄美大島本島北部の竜郷湾では、延長約300mの石垣を半円形に築き、潮の干満を利用して魚を捕る「垣漁」が古くから行われてきた。竜郷湾は波が穏やかで、西側が遠浅になっているため、海底に石を積んで垣を造るのに適している。垣漁の起源は不明であるが、100年以上も前から行われてきたものと推測されている。

現在は生業のために垣漁が行われることはないが、穏やかな海に延びる石垣は周囲の美しい自然環境ともよく調和し、伝統的な漁法を現在に伝える貴重な漁業景観となっている。

【現況】

竜郷湾内は波や潮流が穏やかであるため、石垣が崩れることは少ないが、何十年かに1度の周期で地域の住民により補修が行われている。観光の対象とされてはいるが、通りかかった人々が海底の石垣を写真に撮る場面が見受けられる。

垣漁の歴史及び価値に対する地域の住民の認識は高く、昔ながらの漁法を示す石造構造物として大切に保存され、地域住民や子供たちの手によって補修作業が行われてきた。

【将来への展望】

現在、垣のある景観に対して悪影響を与える開発計画などは予定されていない。垣の歴史的価値に対する住民の意識が高いため、垣は現在の状態のまま継承されていくものと考えられる。

出典：農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書（文化庁）

奄美群島における人と自然の関わり(例示)

奄美群島の伝統的な生活の周りには様々な動植物が見られる。人々は、古くから自然を利用しながら暮らしており、その利用は、普段の衣・食・住のみならず、伝統的な地域文化や産業と多岐に涉っている。

大島紬

奄美群島の伝統的な織物「大島紬」の「泥染め」は奄美の伝統的な染め。里山から切り出してきたシャリンバイをチップにし、その煮汁で最初の染めを行う。シャリンバイのチップの煮汁で染めた絹糸を泥で洗い、深い黒色に染める。泥染め用の小さな池を泥田(どろた)と言い、水生生物の重要な生息・生育地となっている。泥で染めた糸は土地独特の柄に織り上げられ、大島紬と呼ばれる着物になる。伝統的な柄には奄美の自然をモチーフとしたウミガメやソテツを意匠した柄がある。また、山地では藍玉づくりを行っていた大がめの跡をみることが出来る。

鍾乳洞

鍾乳洞が発達する「低島」では、かつては鍾乳洞の底の水を利用していた。民俗学的にも重要な場所であり、また洞穴性の生物の生息地としても重要である。

サンゴ

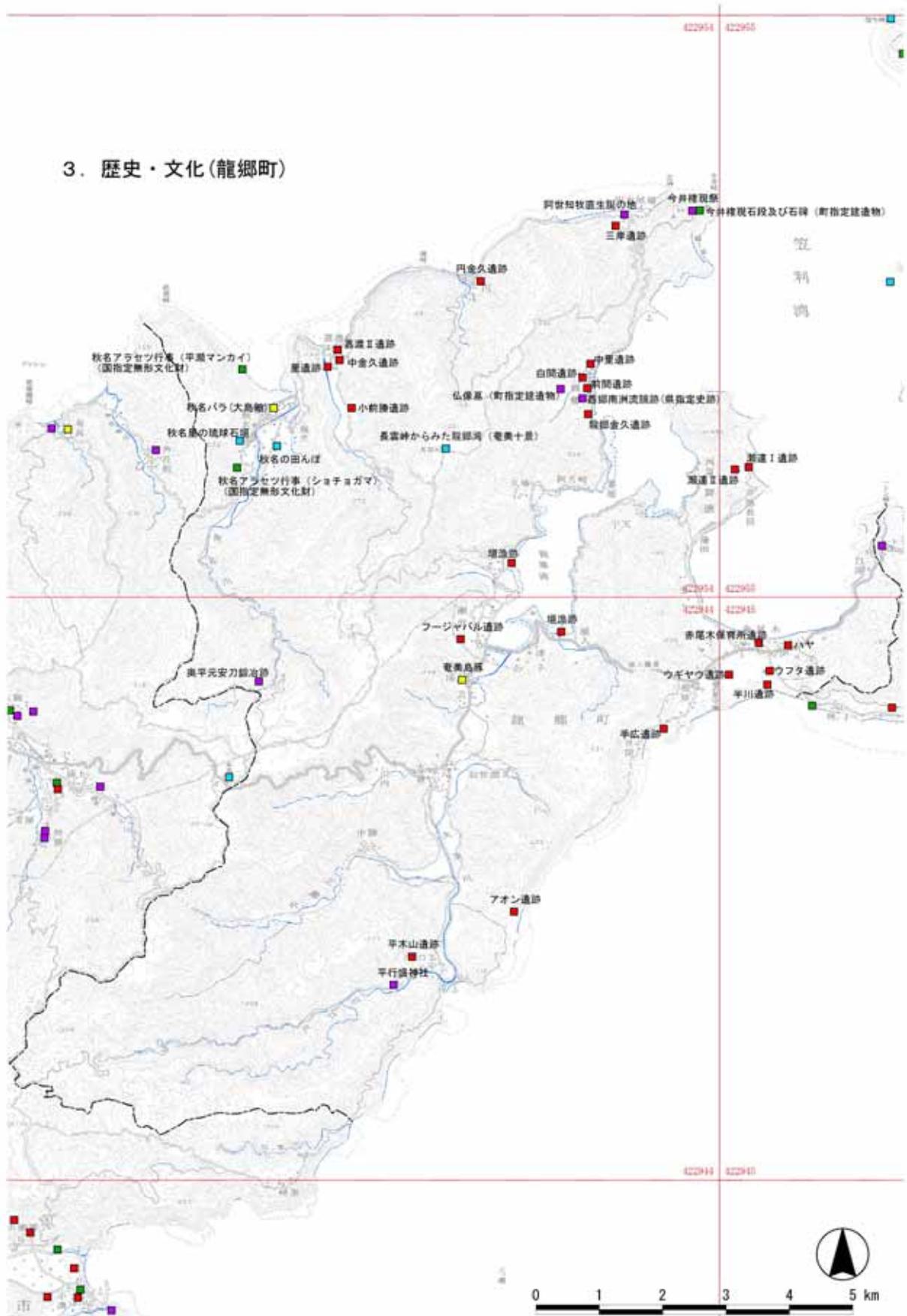
奄美群島は毎年多くの台風に見舞われる。サンゴを切り出して作った石垣は丈夫で、台風にも強い。この石垣を組む職人もいるほどである。

ソテツ

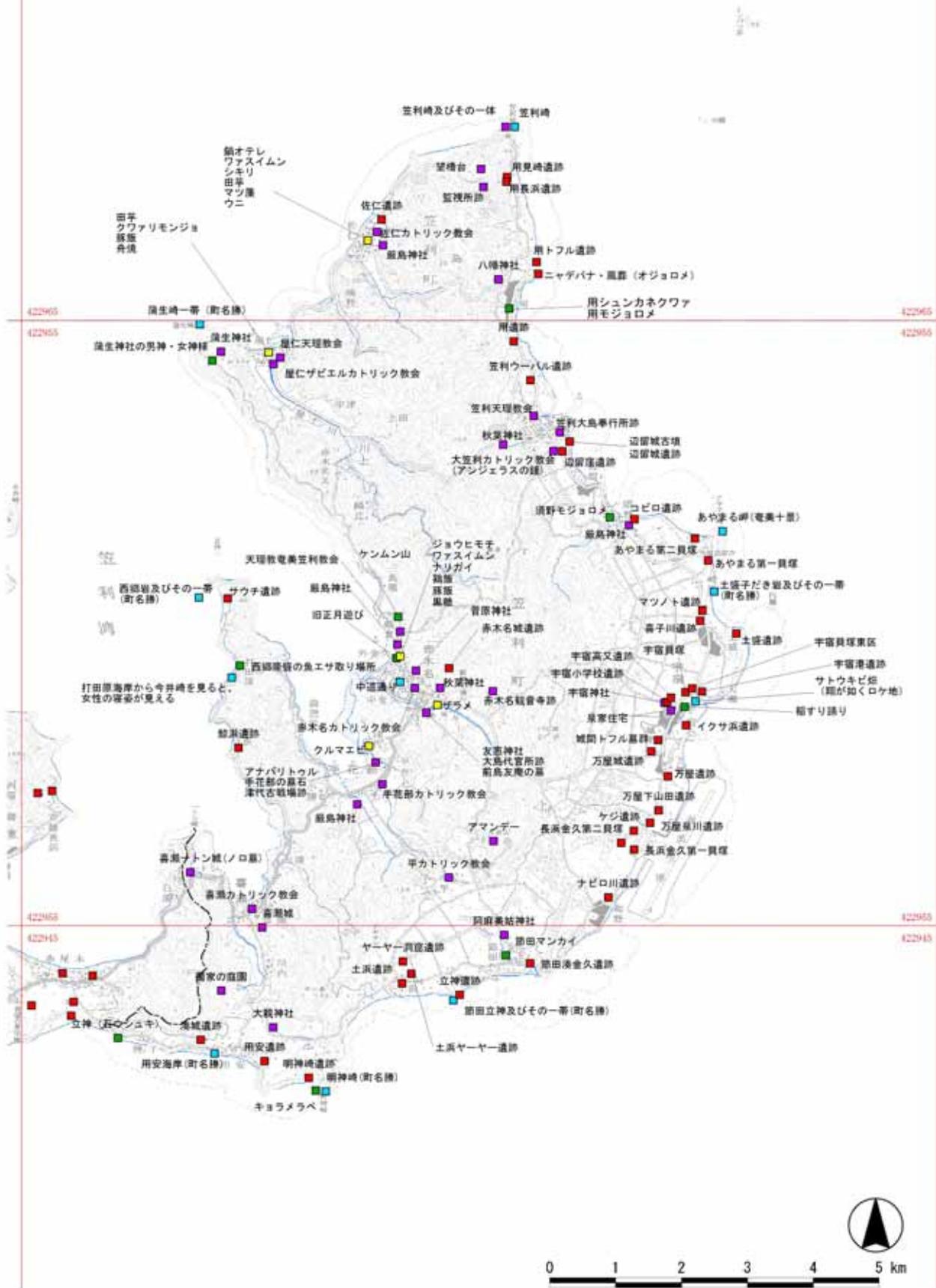
IUCN レッドリスト掲載種のソテツは、古くから人々に利用されてきた。実を調味料(味噌)や餅に加工したり、防風・防潮林として利用することがある。

ホームページ「奄美群島を世界遺産へ」(<http://www.amami.or.jp/isan/index.html>)に加筆作成

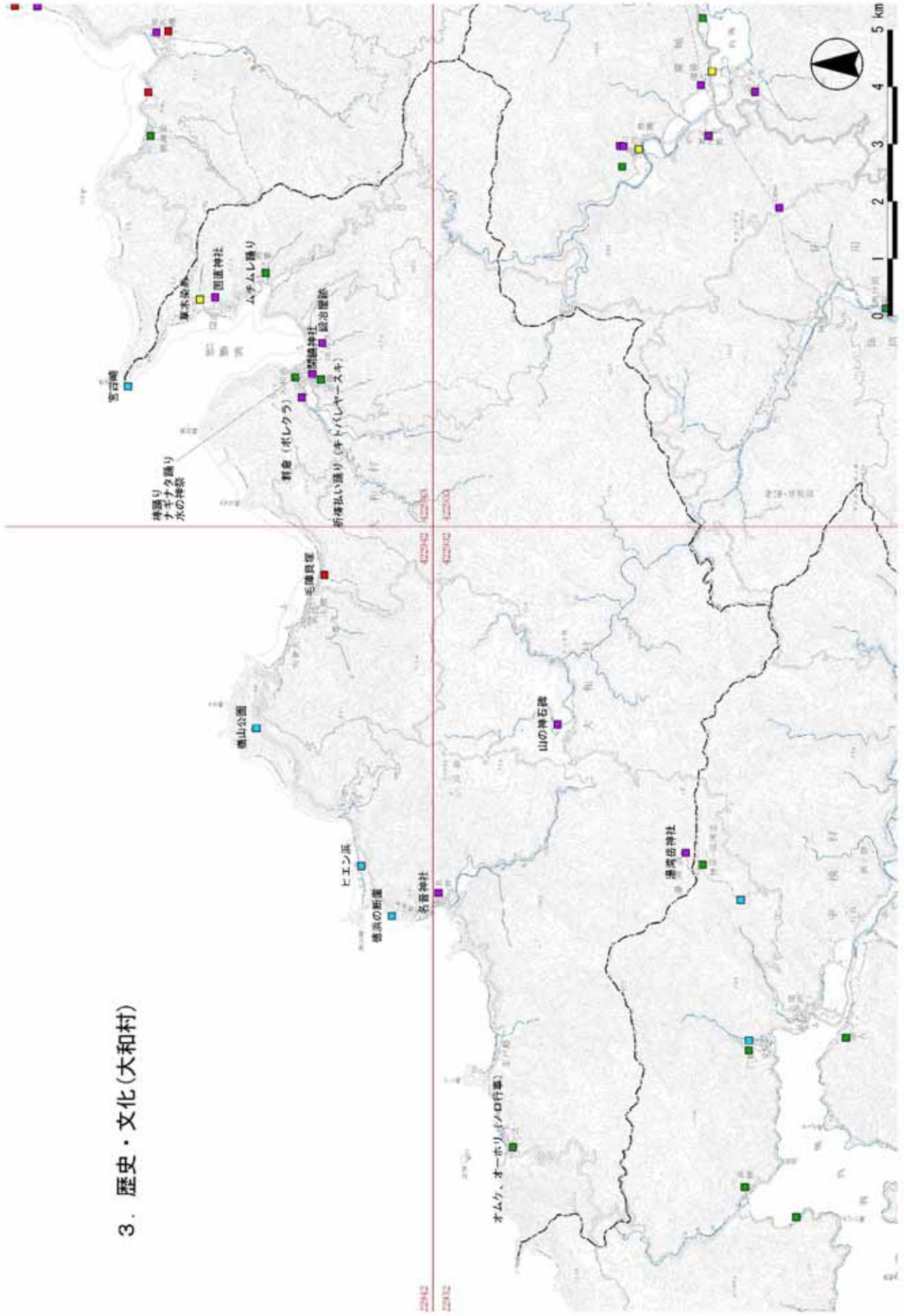
3. 歴史・文化(龍郷町)

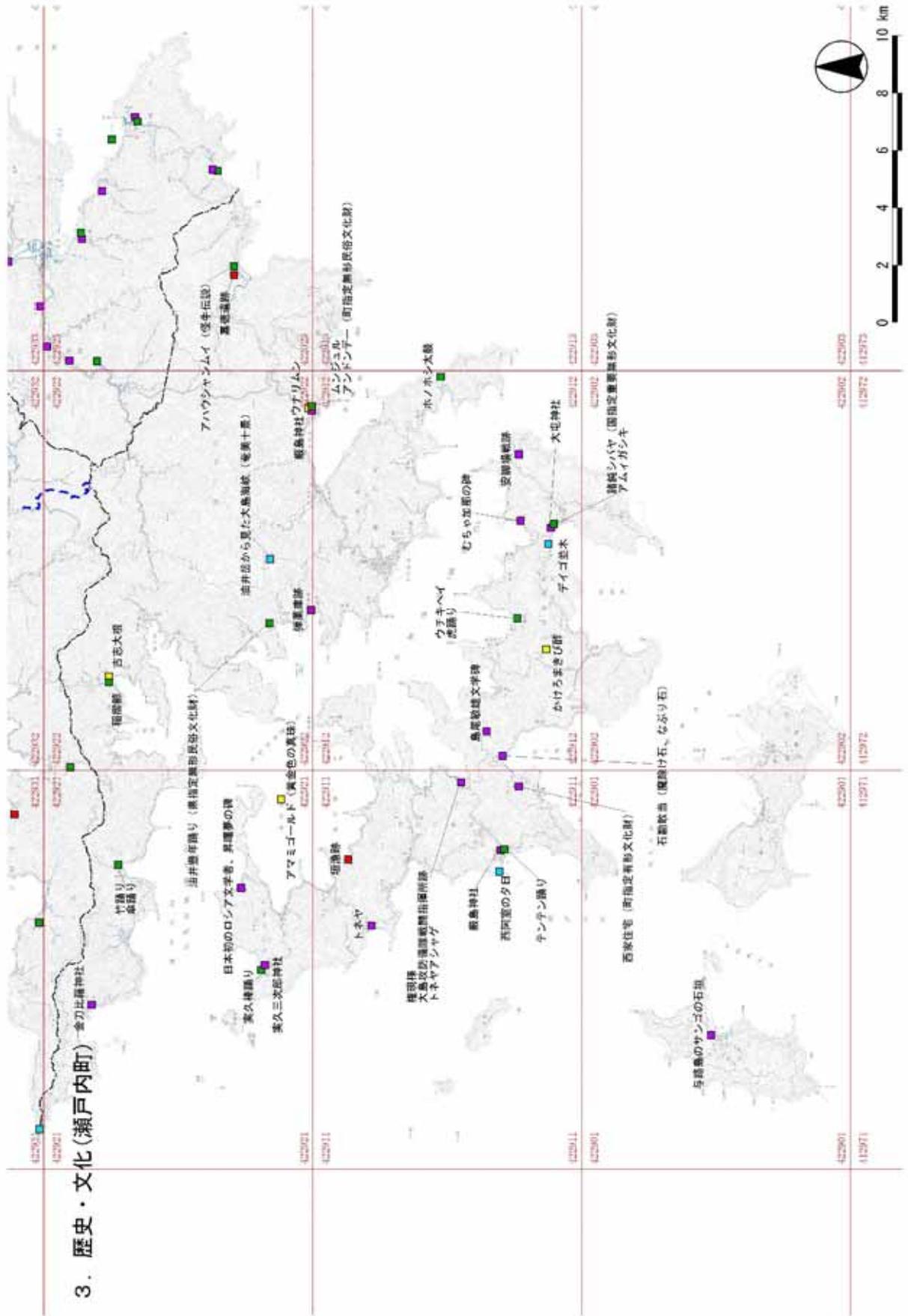


3. 歴史・文化(笠利町)

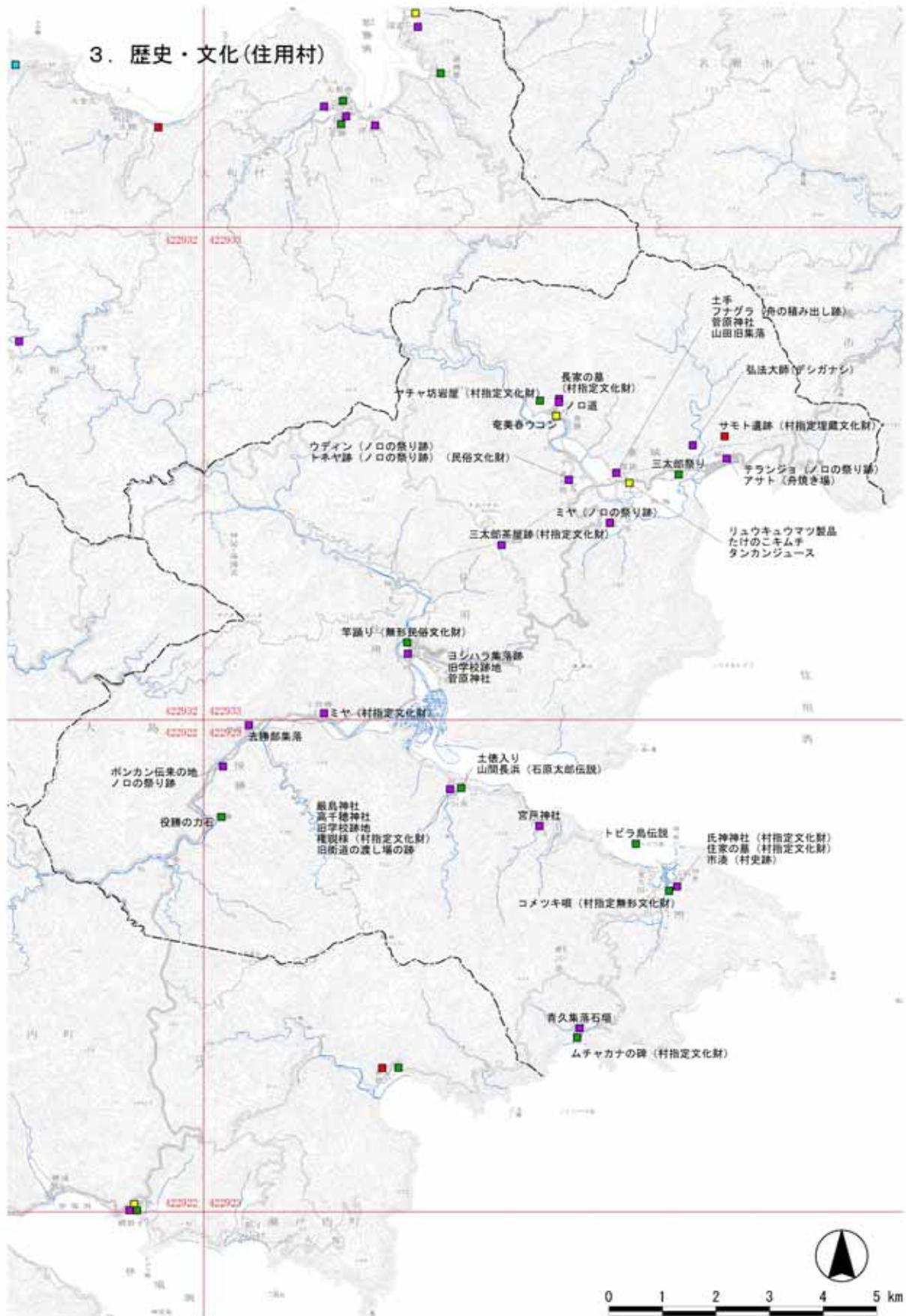


3. 歴史・文化(大和村)

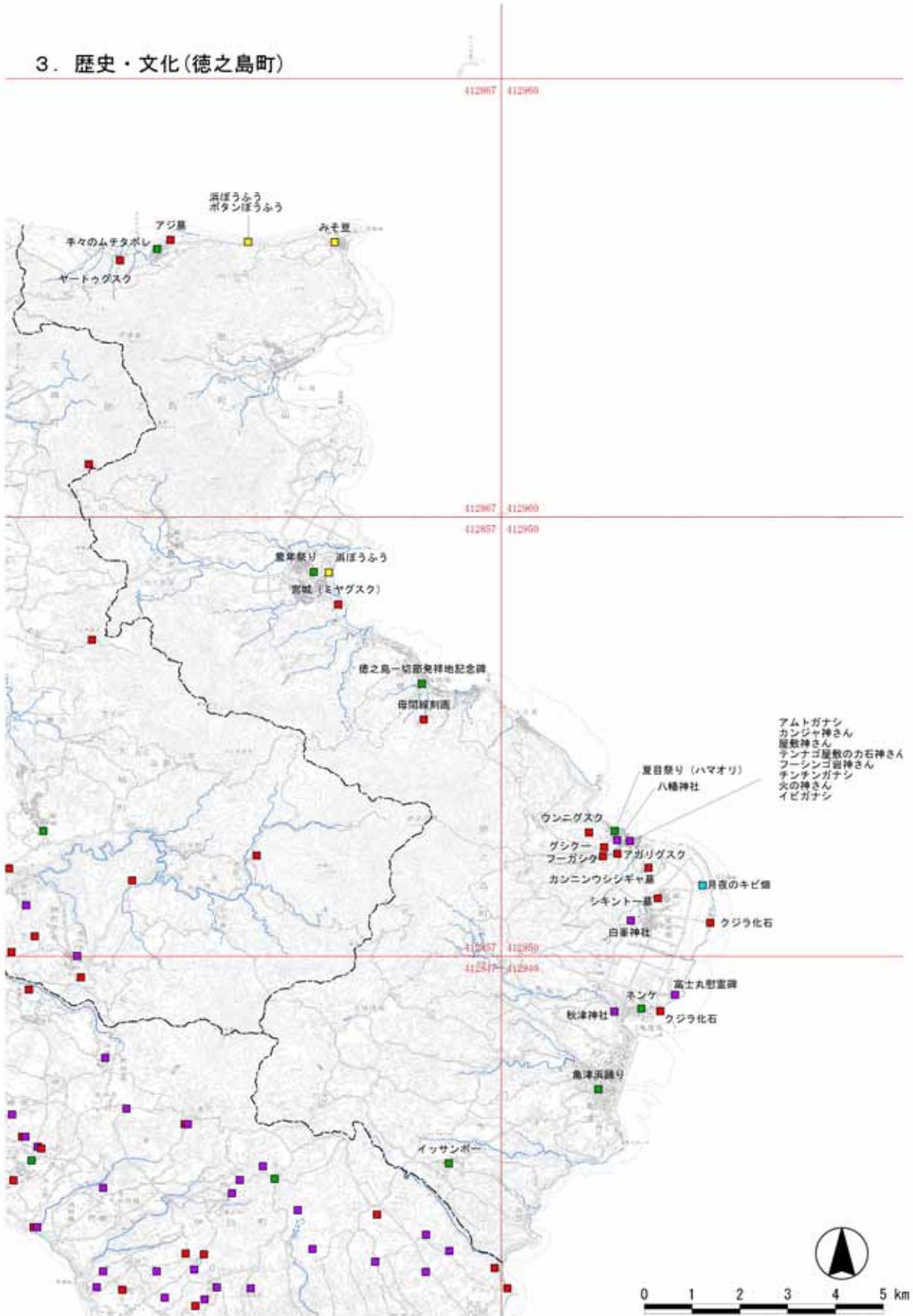




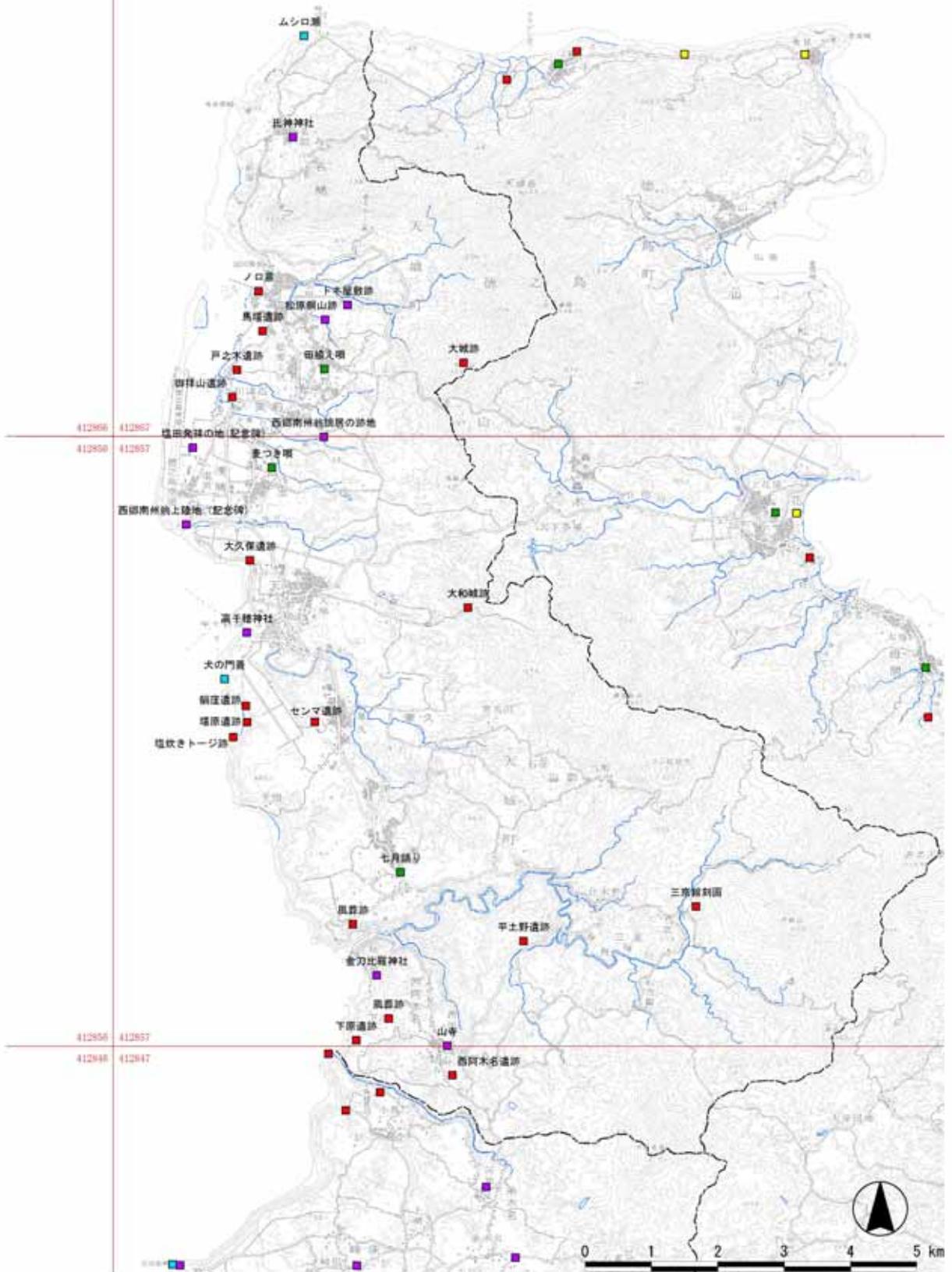
3. 歴史・文化(住用村)

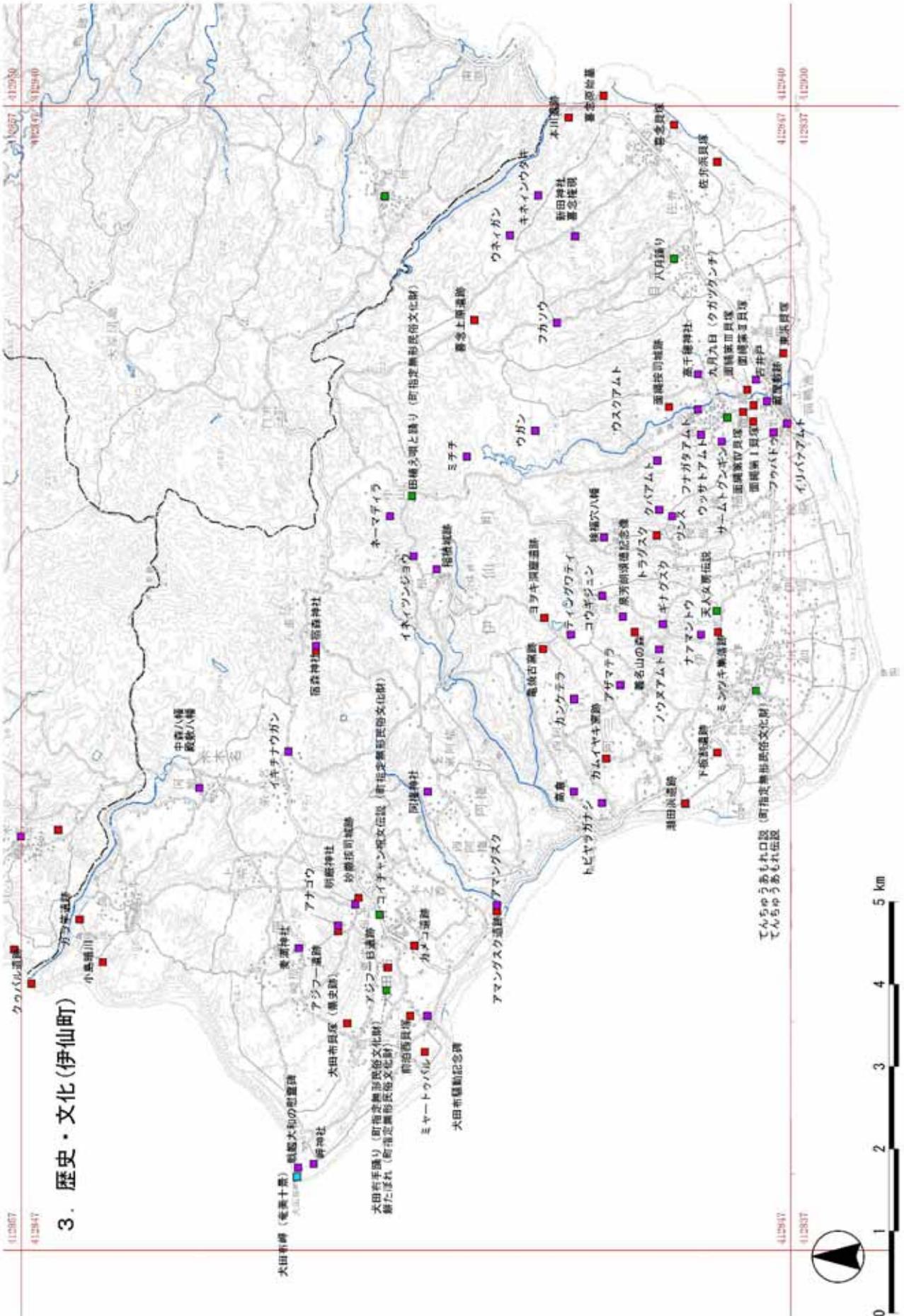


3. 歴史・文化(徳之島町)



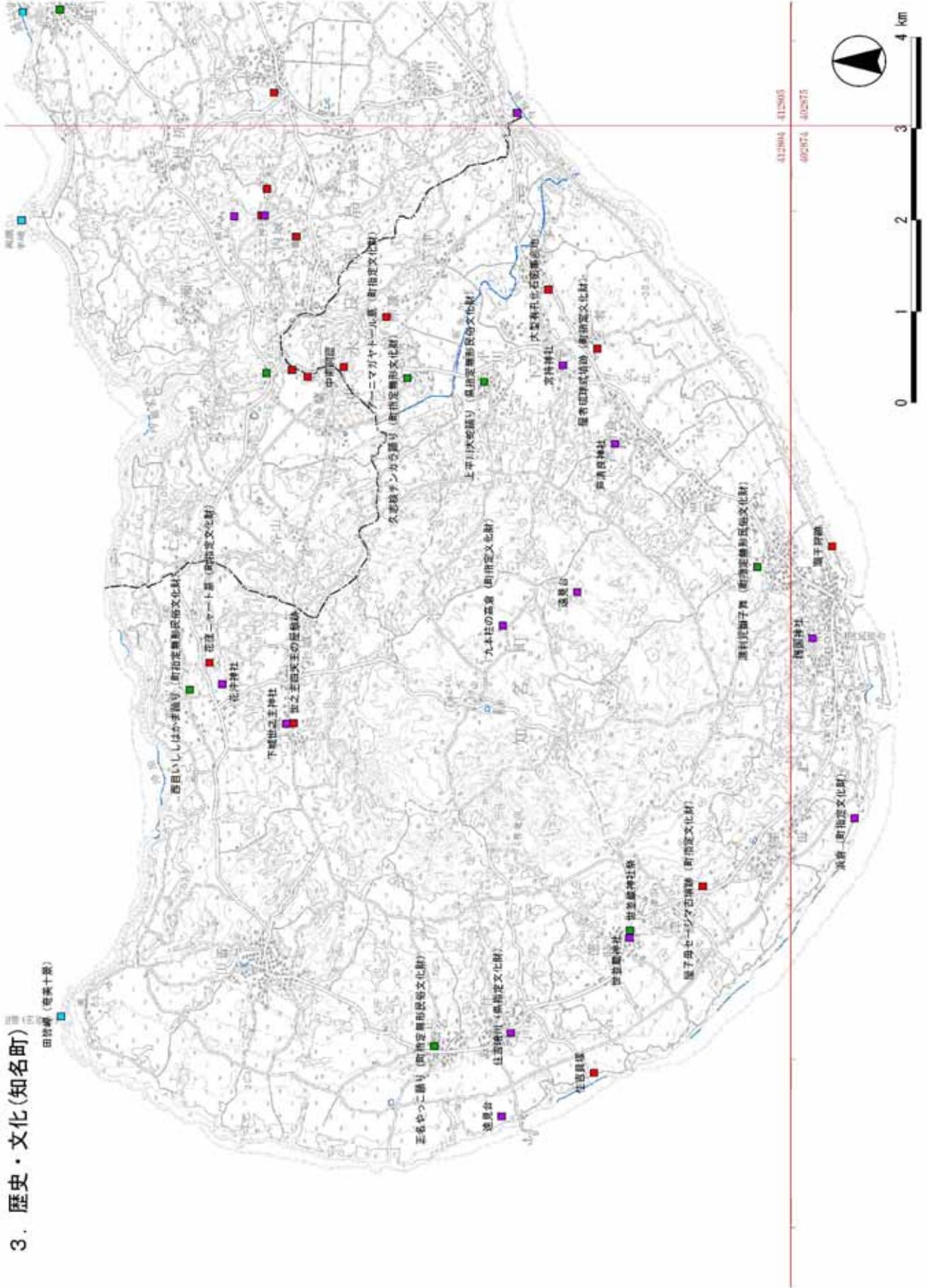
3. 歴史・文化(天城町)



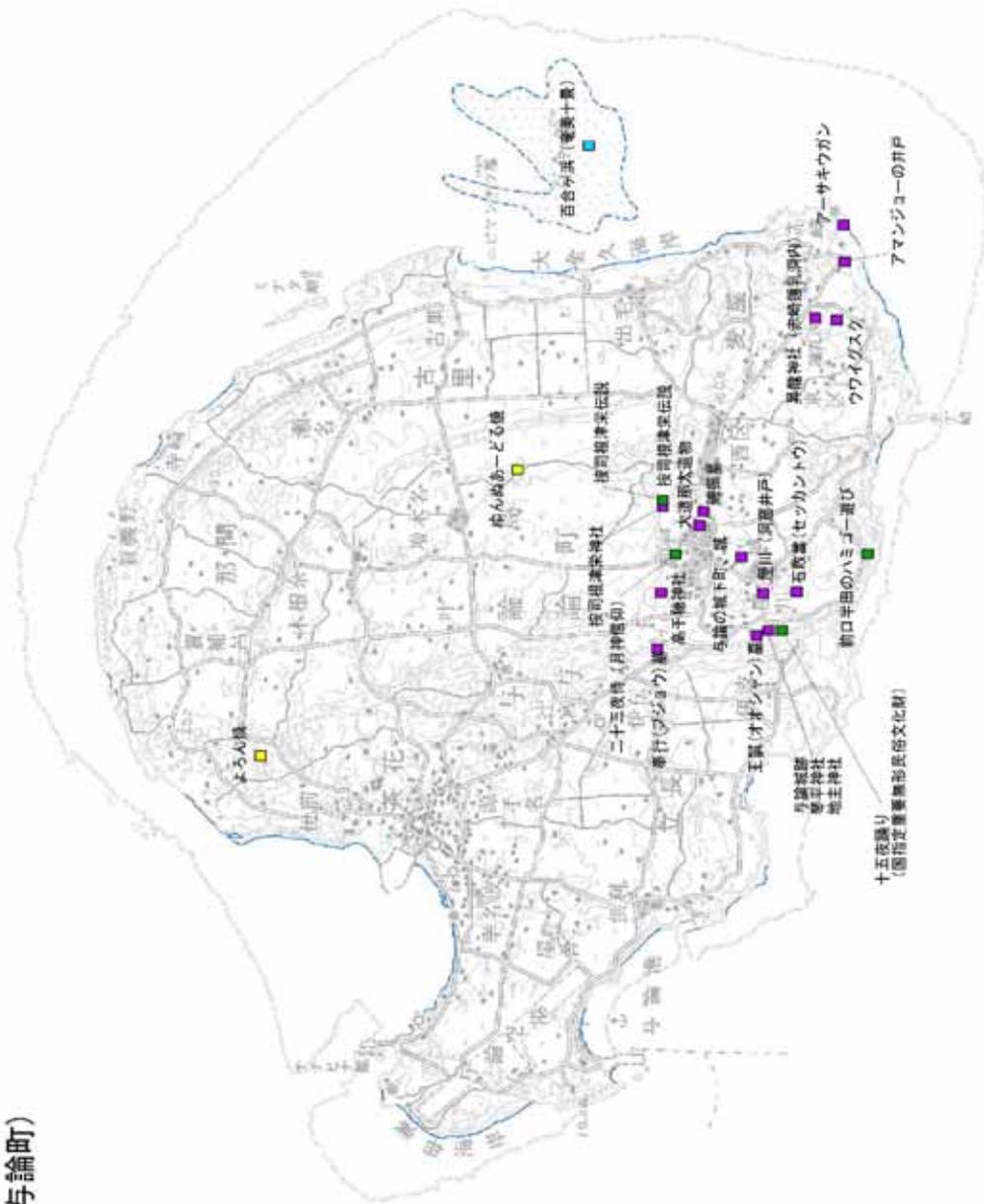


3. 歴史・文化(伊仙町)

3. 歴史・文化(知名町)



3. 歴史・文化(与論町)



奄美群島自然共生プラン「奄美の『宝』」(歴史・文化): 位置図に記載されていない資源一覧

旧名瀬市			
1	ウコン製品	21	八月踊り
2	カネサル	22	浜ジュウガン
3	タンカン・パッション・パパイヤ	23	浜下り
4	ナリ(蘇鉄)味噌・ナリ粥	24	盆踊り
5	ナリモチ	25	油ぞうめん
6	パパイヤ漬け	26	各自治会夏祭り
7	ミキ	27	郷友会八月踊り
8	もずく	28	図解民族史「南島雑話」(写本5冊)
9	鶏飯(ケイハン)	29	島唄と三味線
10	五月節句	30	六調踊り
11	高千穂神社下り	31	ノ口の儀式
12	黒糖	32	イザリ漁(夜漁)
13	黒糖焼酎	33	先人の教え・教訓
14	三月節句	34	島唄大会
15	三献	35	十五夜唄あしび会
16	十五夜・豊年祭	36	魚介類などを活用した製品
17	大島紬	37	ハブ製品
18	豚骨(ワンフネ)	38	古見地区の文化財
19	年のユル	39	小湊ナンガネク(中金久)遺跡
20	年の祝い	40	小湊等の集落空間(マ、神道、ト社、神山、イ、ユ、ゴ、ハカヨ等)
龍郷町			
1	ゼリー・ジュース(たんかん・パッション・すもも)	5	三八日(アラセツ・シバサシ・ドンガ)
2	パパイヤ漬け	6	種おろし
3	黒糖焼酎	7	十五夜・豊年祭
4	三月三日(サンググチサンチ)	8	大島紬
旧笠利町			
1	ナリ(ソテツ)味噌	13	六月燈
2	ナリ粥	14	正月行事
3	パッション	15	2月(旧暦)ヤドリ節句
4	パパイヤ漬け	16	3月(旧暦)3月節句
5	ばんしろ茶	17	4月(旧暦) アズラネ・マーネ 浜おれ(ムシアソビ)
6	もずく	18	5月(旧暦) 5月節句 お月まちと、お日まち(ウガミ)
7	三月三日(サングワチサンチ)	19	6月(旧暦) シキョマ 6月燈
8	三八日(アラセツ・シバサシ・ドンガ)	20	7月(旧暦) たなばた祭り お盆
9	十五夜・豊年祭	21	8月(旧暦) アラセツ シバサシ ドンガ 十五夜(相撲)
10	大島紬	22	9月(旧暦) 9月9日 カネサル(種子おろし)
11	浜下り(ムシアソビ)	23	招魂祭り
12	油ぞうめん	24	

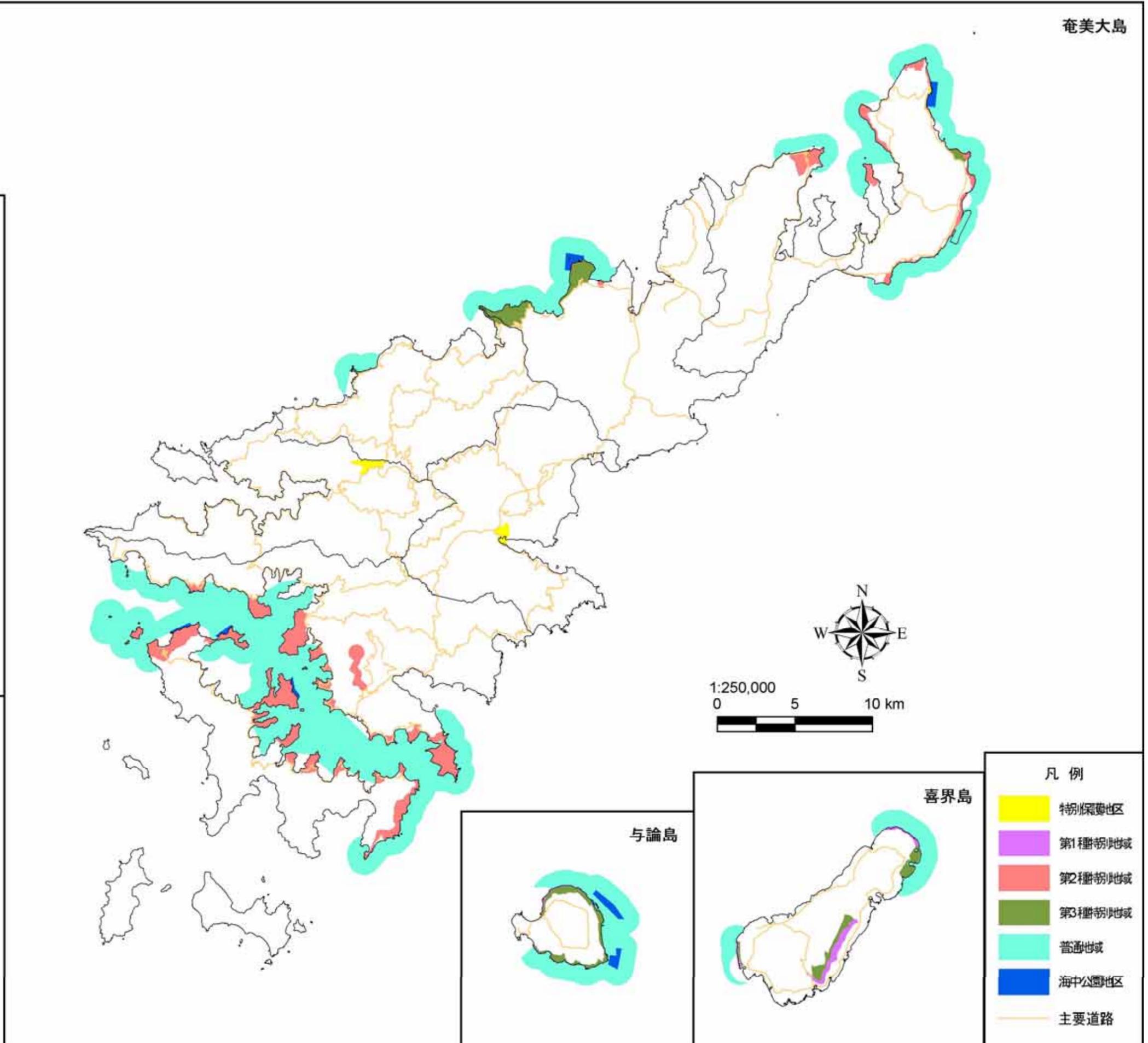
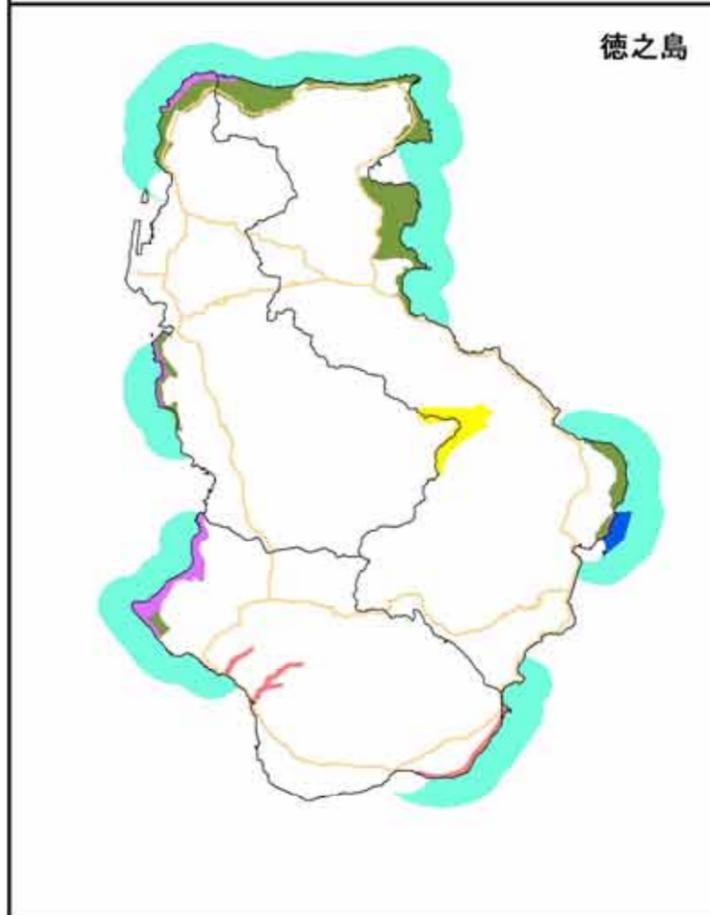
大和村			
1	11日吸物(トクザラエ)	20	黒糖製品
2	アズラネ	21	若水汲み
3	アラホバナ	22	舟祝い(フネヌヨウエー)
4	カンブツキ	23	大願い(フーネゲー)
5	さとうきび酢	24	大工祝い(セークヌヨウエー)
6	シチガ	25	大島紬
7	ショキマ	26	鍛冶屋ノ神の祭り
8	ソーリ	27	朝三献
9	タンカン、ポンカン	28	冬折目(フユルメ)
10	ナリ味噌、ナリ粥	29	豚骨料理
11	パッションフルーツ	30	浜降り
12	ハマシヨガツ	31	豊年祭り
13	バンジロー茶、グバア茶	32	盆行事(ブンモケ、アクニチ)
14	フルメ(大折目)	33	餅もらい踊り
15	もずく、うに、あおさ	34	油ぞうめん
16	稲の穂供し(ニーフトモシ)	35	大和村の方言
17	奄美プラム	36	大柵の敬老会
18	九月九日(クガツクンチ)	37	今里の八月踊り
19	鶏飯	38	今里のヨーハレ踊り
宇検村			
1	イノシン料理	4	三月三日(サングチサンチ)
2	シマの守り神「ノ口神様」伝説	5	三八月(アラセツ・シバサシ・ドンガ)
3	にんにく酒	6	十五夜・豊年祭
瀬戸内町			
1	イセエビ料理	10	もずく
2	うこん製品	11	黒糖焼酎
3	うに	12	三月三日(サングワチサンチ)
4	タンカン	13	三八月(アラセツ・シバサシ・ドンガ)
5	ツワ料理	14	山羊汁
6	とんこつ料理	15	種おるし
7	ノ口の祭り	16	十五夜・豊年祭
8	パパイヤ	17	浜下り
9	マンゴー	18	
旧住用村			
1	インゲン	7	十五夜・豊年祭
2	スモモ	8	名物かに料理「フヤフヤ」
3	タンカン	9	島口伝承者(方言)
4	パッション	10	米つき唄
5	三月三日(サンググワチサンチ)	11	サワラ突き
6	三八月(アラセツ・シバサシ・ドンガ)	12	ポンカン
喜界町			
1	ゴマ製品	9	黒糖焼酎
2	さとうきび酢	10	三味線
3	シチャミ(節浴)	11	山羊料理
4	花良治みかん	12	十五夜・豊年祭
5	貝・サンゴ加工品	13	大島紬
6	九月灯	14	豚骨料理
7	高祖祭(シチオンメ・シバサシ・ナンカビー)	15	八月踊り
8	黒糖	16	六月灯

徳之島町			
1	ソーダもち	15	鶏飯
2	タンカン	16	黒糖製品
3	八月十五日夜行事	17	山羊料理
4	パパイア	18	赤土バレイショ
5	ハブ皮製品	19	大島紬
6	浜下り	20	地豆腐
7	ぶたみそ入りおにぎり	21	田植え唄と踊り
8	ボンカン	22	島バナナ
9	前原口説	23	闘牛
10	マンゴー	24	豚骨料理
11	伊勢海老	25	落花生
12	貝細工	26	井之川の夏目踊
13	活魚料理	27	島の食糧難時代の料理のレシピ
14	魚なくさみ	28	島口
天城町			
1	ソーダもち	15	黒糖製品
2	田植え唄と踊り	16	山羊料理
3	タンカン	17	赤土バレイショ
4	パパイア	18	大島紬
5	ハブ皮製品	19	地豆腐
6	ぶたみそ入りおにぎり	20	島バナナ
7	ボンカン	21	闘牛
8	前原口説	22	豚骨料理
9	マンゴー	23	八月十五夜行事
10	伊勢海老	24	浜下り
11	貝細工	25	徳三宝
12	活魚料理	26	当部アガリマタイジュン
13	魚なくさみ	27	落花生
14	鶏飯		
伊仙町			
1	イッサンサン(町指定無形民俗文化財)	21	山羊料理
2	大綱引き	22	赤土バレイショ
3	コーヒー	23	大島紬
4	サダジマメ	24	地豆腐
5	ソーダもち	25	冬瓜
6	タンカン	26	島バナナ
7	にんにく	27	豚骨料理
8	パパイア	28	落花生
9	ハブ皮製品	29	サタジマメ
10	ぶたみそ入りおにぎり	30	トーガン
11	豊年祭・十五夜	31	薬草
12	ボンカン	32	ニンニク漬
13	前原口説(町指定無形民俗文化財)	33	パパイア漬
14	マンゴー	34	ソテツ味噌
15	伊勢海老	35	ヨモギ餅
16	貝細工	36	味噌漬
17	活魚料理	37	タピオカ餅
18	魚なくさみ	38	天然塩
19	鶏飯	39	芭蕉布
20	黒糖製品	40	ジマメトーフ

和泊町			
1	あおさ	16	山羊料理
2	えらぶ南州太鼓	17	獅子舞
3	きくらげ	18	収納米踊り
4	じゃがいも	19	大島紬
5	せんする踊り	20	田芋料理
6	にがうり豆腐	21	豆腐の味噌漬け
7	びわ茶	22	豚骨料理
8	ブッシュカン、パパイアの漬物	23	忍び踊り
9	ブッシュカン、パパイアの漬物	24	百合球根
10	伊勢海老	25	遊び踊り
11	花(フリージア、ユリ他)	26	琉球舞踊
12	竿打踊り	27	富峯明氏(永嶺)
13	鶏飯	28	長田栄智氏(国頭)
14	黒糖製品	29	畦布の鐘叩き
15	方言		
知名町			
1	あおさ	14	豆腐の味噌漬け
2	きくらげ	15	豚骨料理
3	じゃがいも	16	百合球根
4	にがうり豆腐	17	芭蕉布・黒潮焼
5	びわ茶	18	ソテツの食利用
6	ブッシュカン・パパイアの漬物	19	薬草(オオバコ、ヨモギ、竹の幹、オーギ等)
7	伊勢海老	20	年中行事
8	花(フリージア・ユリ他)	21	民謡と踊りと方言
9	鶏飯	22	民話と諺と方言
10	黒糖製品	23	通称・いわれ
11	山羊料理	24	古文書(明治期の村会議決書等)
12	大島紬	25	遊び(サシ、当遊び、闘鶏等)
13	田芋料理	26	特産物(加工品)
与論町			
1	88の祝い(88歳を祝う)	21	与論ラッパ節
2	イキントウ節	22	貝細工
3	イヤーブジ(祖先祭)	23	黒糖焼酎
4	イユーガマ(アイゴの稚魚)やナマコの酢の物	24	黒糖製品
5	ウコン	25	豊年祭り(十五夜踊)
6	ウニ汁	26	与論かぼちゃ
7	五月節句	27	カミフガン(八月ニゲー・正月ニゲー)
8	サイサイ節	28	サービマートゥイ伝説
9	シバサシ	29	与論献奉
10	シニユグ(シニユグ祭、豊年祈願)	30	誠(俚諺)
11	シニユグ祭り	31	ゆい(結い)
12	チキナー	32	城言葉
13	トビウオ、シビ、大王イカ、加工品	33	与論ラッパ節
14	ナヌカミシャー・クーヌカミシャー	34	ヤーナー・島名(シマナー)
15	ハージャー祭り	35	遊人(アシピンチュ)
16	八月願(ハージャー祭り)	36	猿渡文書
17	ヘークヨイ(大工の道具祝)	37	瀧文書
18	マンゴー・アテモヤ	38	基家系図
19	もずくそば	39	東家系図
20	ユンヌエイサー(太鼓)	40	龍野家系図

奄美群島国定公園概要図

奄美大島



6 . 利用の現状

観光客数の推移（島別）

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島	合計
昭和 50 年	222.436	19.275	70.733	52.315	55.177	419.936
昭和 60 年	108.014	24.017	40.505	33.426	99.447	305.409
平成元年	144.466	28.877	43.543	35.893	89.226	342.005
平成 5 年	166.152	27.362	47.442	37.115	82.114	360.185
平成 7 年	248.446	22.527	65.558	39.362	51.308	427.201
平成 10 年	249.116	26.04	69.438	46.034	45.658	406.286
平成 11 年	231.476	24.951	66.839	42.488	39.043	404.797
平成 12 年	229.108	25.067	66.364	43.974	40.859	405.372
平成 13 年	236.67	25.327	67.865	44.114	41.387	415.363
平成 14 年	237.847	25.124	67.975	43.015	40.169	414.13
平成 15 年	249.821	24.571	68.373	42.487	41.58	426.832
平成 16 年	233.832	23.829	65.386	41.89	38.674	403.611
平成 17 年	233.866	26.447	66.42	41.251	38.261	406.245

（注）入込観光客（推計）：入込のうち群島民の移動を除いたもの（ビジネス客を含む）。

出典：奄美群島の概要（鹿児島県）

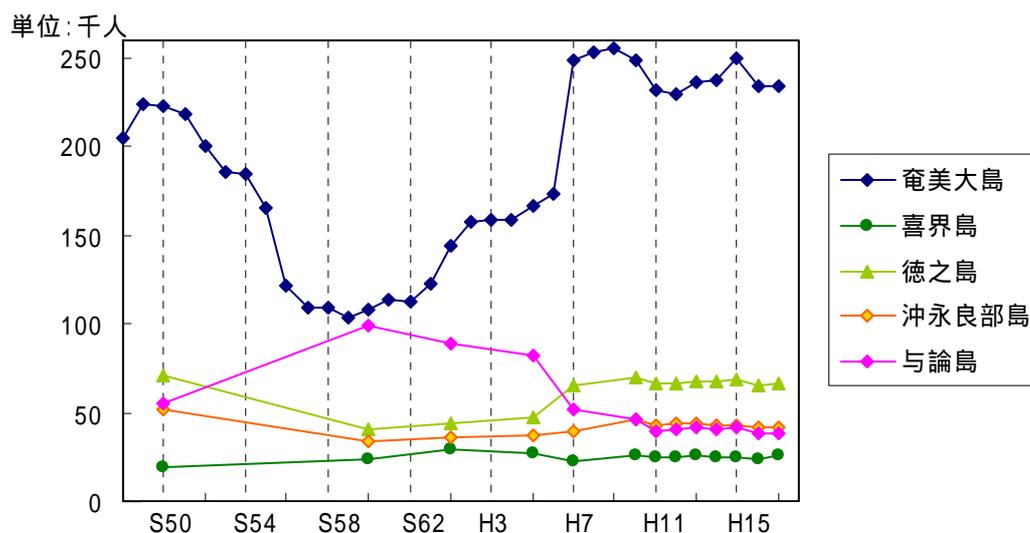


図 - 島別入込観光客数の推移

月別入込客数（島別）

月別 島別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	奄美大島	30,509 7.5%	29,167 7.2%	34,755 8.6%	30,483 7.5%	35,618 8.8%	30,414 7.5%	38,323 9.4%	48,257 11.9%	28,882 7.1%	34,066 8.4%	33,848 8.3%	31,683 7.8%
喜界島	4,561 7.4%	4,335 7.1%	5,088 8.3%	4,301 7.0%	6,069 9.9%	4,828 7.9%	5,576 9.1%	7,230 11.8%	4,224 6.9%	4,735 7.7%	5,482 8.9%	5,032 8.2%	61,461 100.0%
徳之島	11,476 8.3%	9,539 6.9%	11,688 8.5%	10,227 7.4%	12,814 9.3%	11,311 8.2%	12,608 9.1%	15,988 11.6%	8,640 6.2%	11,139 8.1%	10,998 8.0%	11,848 8.6%	138,276 100.0%
沖永良部 島	6,761 7.6%	6,262 7.1%	7,741 8.7%	6,640 7.5%	8,479 9.5%	6,939 7.8%	7,955 9.0%	9,793 11.0%	5,952 6.7%	6,744 7.6%	7,319 8.2%	8,211 9.2%	88,796 100.0%
与論島	3,746 6.2%	3,922 6.5%	5,231 8.6%	3,533 5.8%	5,317 8.8%	4,900 8.1%	6,496 10.7%	9,429 15.6%	4,532 7.5%	4,800 7.9%	4,550 7.5%	4,022 6.7%	60,478 100.0%
合 計	57,053 7.6%	53,225 7.0%	64,503 8.5%	55,184 7.3%	68,297 9.0%	58,392 7.7%	70,958 9.4%	90,697 12.0%	52,230 6.9%	61,484 8.1%	62,197 8.2%	60,796 8.1%	755,016 100.0%

（注）入込：奄美群島外から群島内に入ってきた人数及び奄美群島内において各島間を移動した人数の合算。

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

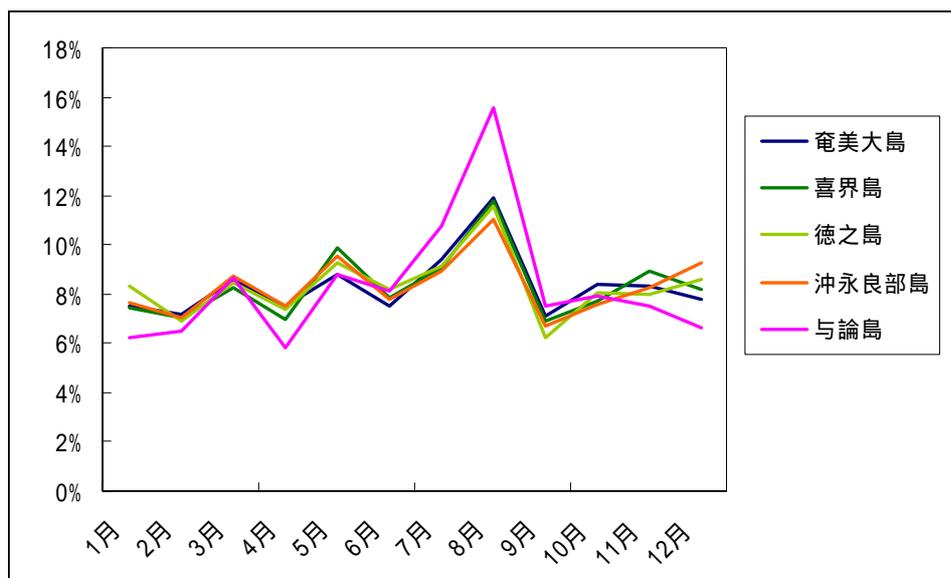


図 - 島別・月別入込客数の推移

主要観光施設の利用者数(人)

奄美パーク

年度	平成 13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度
人数	169,390	221,151	203,258	159,540	141,892

(注) 平成 13 年 9 月に供用開始。
奄美の郷と田中一村記念美術館の入園者数の合計

「黒潮の森」マングローブパーク

年度	平成 13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度
資料館	24,943	29,167	30,521	29,043	23,936
カヌー	5,883	17,465	21,501	20,298	21,079

(注) 平成 13 年 7 月に供用開始。

大浜海浜公園

年度	平成 10 年度	11 年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度
人数	193,197	175,973	162,941	111,654	139,130	167,275	145,246	128,314

(注) キャンプ場を含む

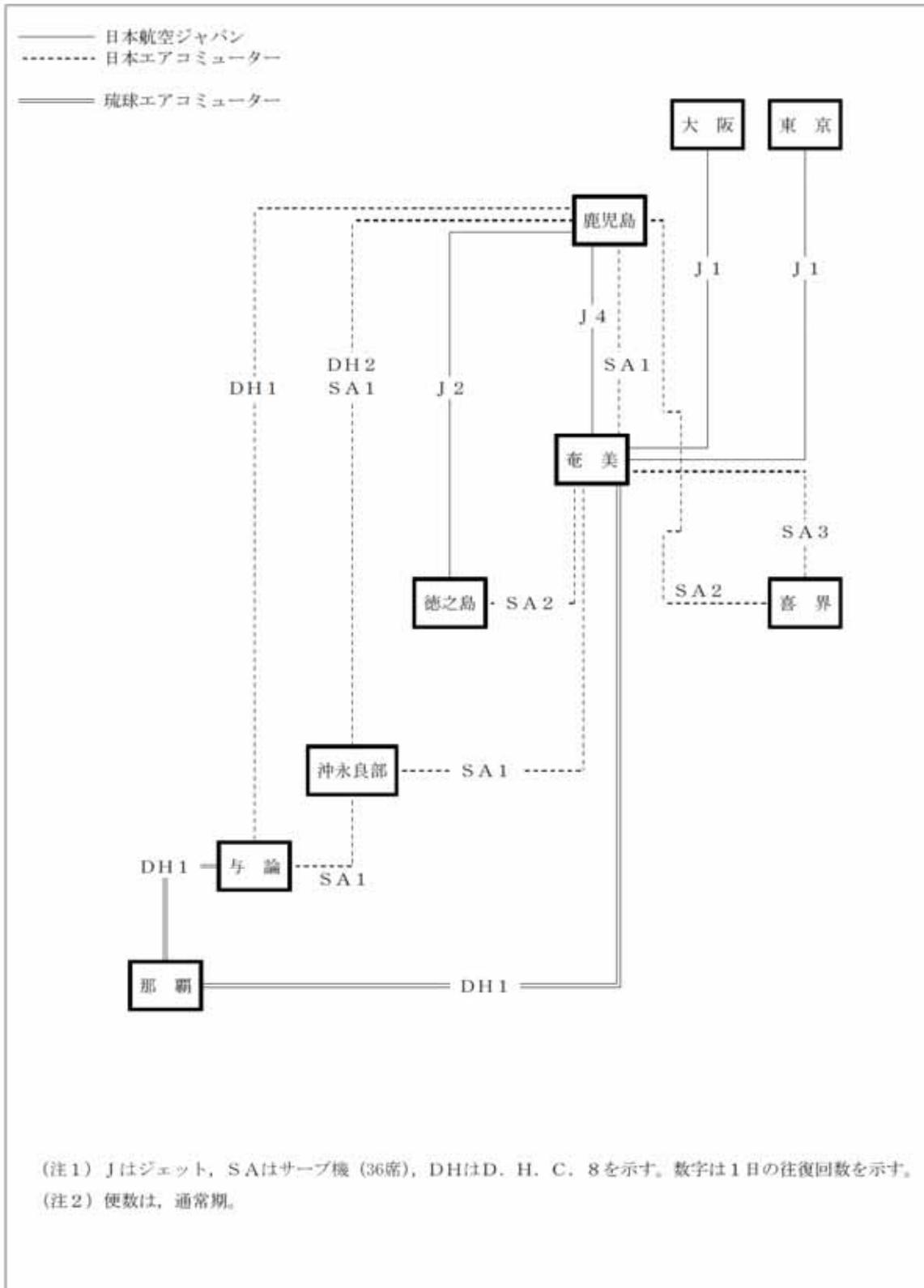
宿泊施設

市町村	区分	軒数	収容人員	
			一般	団体
総数		229	7684	8969
奄美大島		124	3317	3827
	奄美市	53	1847	2128
	大和市	7	174	174
	宇検村	5	114	234
	瀬戸内町	45	768	850
喜界島	龍郷町	14	414	441
	喜界町	18	447	585
徳之島		37	1214	1436
	徳之島町	24	750	862
	天城町	9	411	444
	伊仙町	4	53	130
沖永良部島		19	677	825
	和泊町	13	471	608
	知名町	6	206	217
与論島		31	2029	2296
	与論町	31	2029	2296

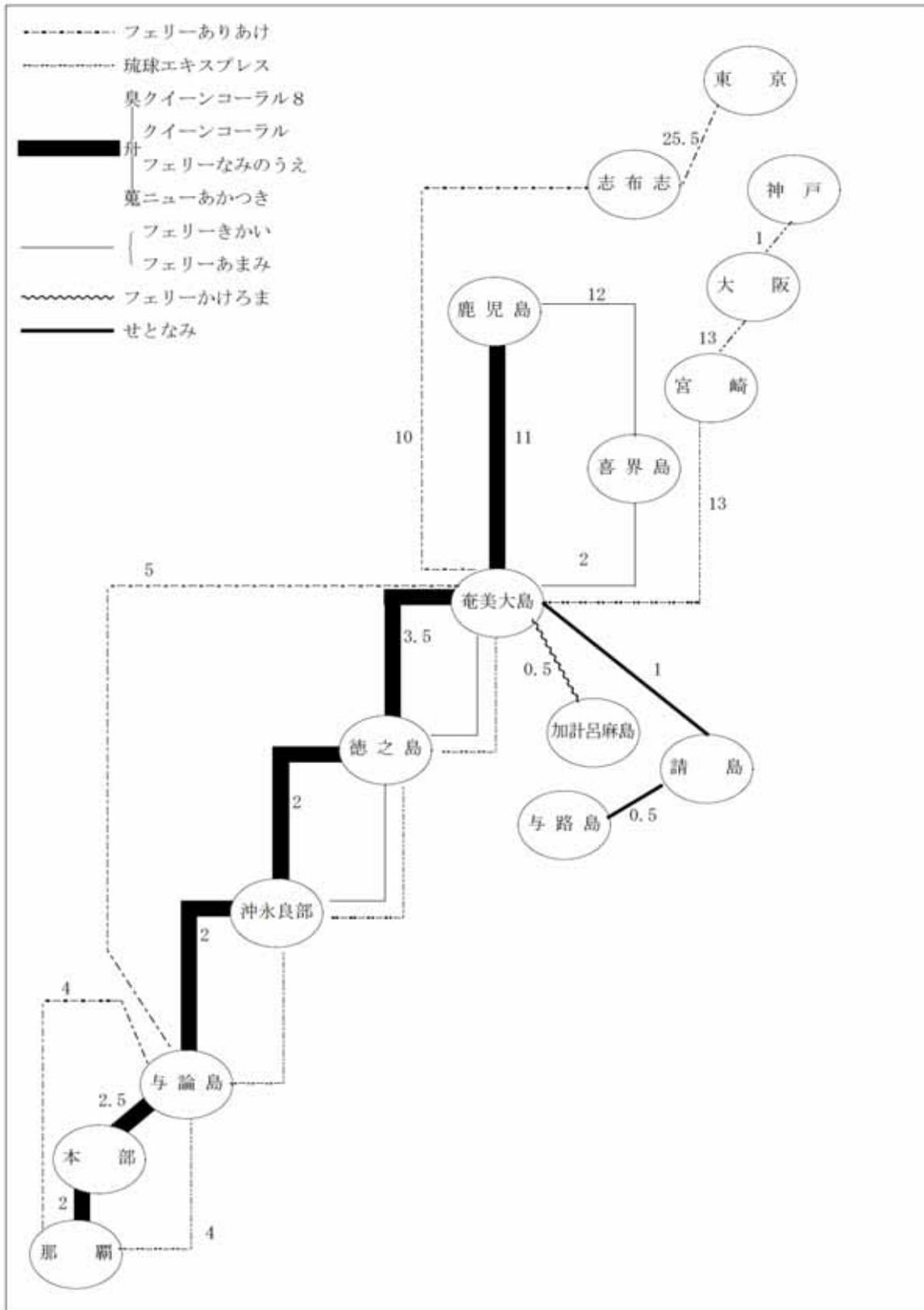
現に営業中のものだけで、休業、無許可、申請中のものは含んでいない。

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

交通
【空路】



【海路】



(注) 1. 数字はだいたいの所要時間を示す。
 2. 鹿児島・奄美大島間にはトカラ列島経由の客船（十島村営 としま）もある。

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

エコツアーの実施状況

エコツアー事業者数

奄美群島におけるエコツアーは、ダイビング、文化体験等を含めると、87事業者により実施されている。大島では63事業者が存在する。

陸域において自然資源等を活用したツアーを提供している事業者（エコツアー複合事業者）のうち19事業者中17事業者が奄美大島を活動拠点としている。

表 島別・活動分野別のエコツアー事業者数

島名	分類	エコツアー複合事業者	ダイビング専門事業者	文化・生活体験専門事業者	その他事業者	計
奄美大島		17	26	14	6	63
喜界島		0	2	0	0	0
徳之島		0	4	3	0	5
沖永良部島		0	2	1	0	3
与論島		2	6	7	1	16
計		19	40	25	7	87

：本調査ではエコツアーを「少人数・ガイド付きで自然や文化を対象とした観光利用」と定義し、エコツアー事業者を、その活動分野によって以下～のタイプに分けた

エコツアー複合事業者：陸域で、あるいは海域を含めて、複合的にエコツアーを提供している事業者（トレッキング、バードウォッチング、カヌー、シュノーケリング、車両を用いた自然観察等）

ダイビング専門事業者：ダイビングだけを提供している事業者

文化・生活体験事業者：文化・生活体験だけを提供している事業者

その他事業者：グラスボート事業者など

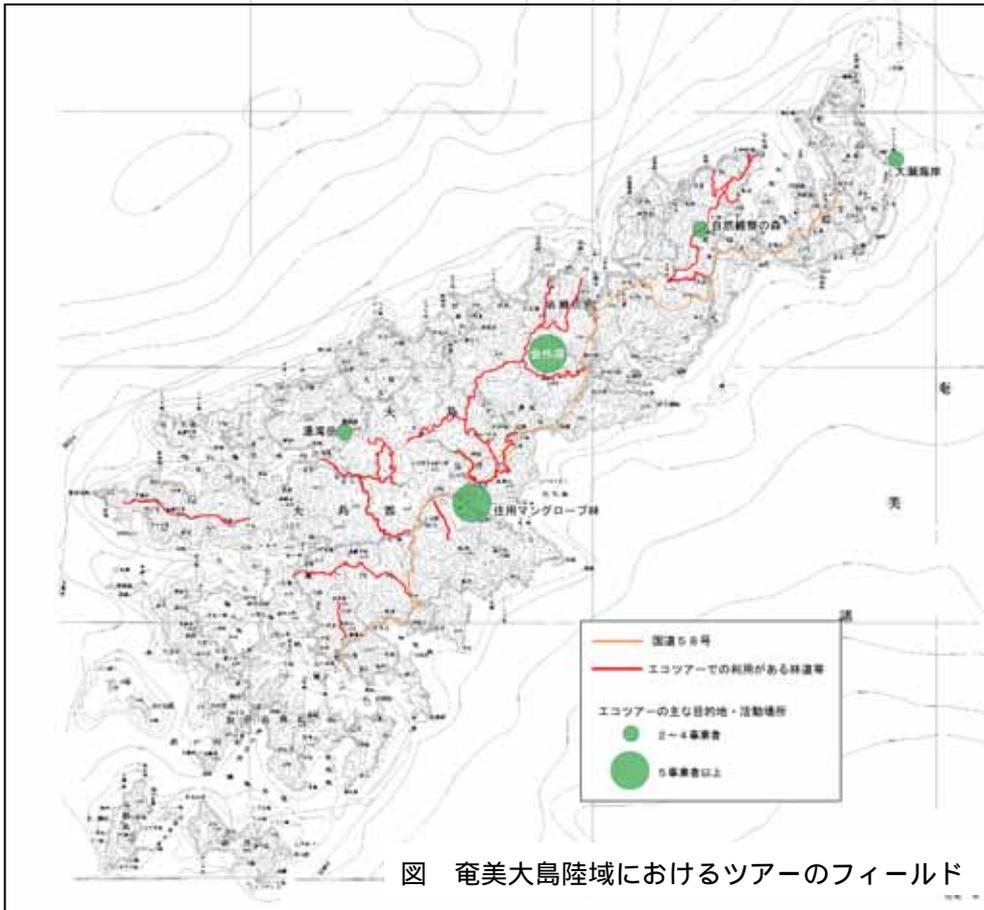
陸域の利用状況

陸域の活動フィールドは、奄美大島の金作原原生林と住用川河口マングローブ林が多く、複数のフィールドを組み合わせたコースも設定されている。

ツアーの日程は、1日もしくは半日のコースが多数を占め、その他夜間コースや宿泊を伴うものも見られる。

ヒアリング調査等の結果から推測される大島の陸域におけるエコツアー参加者（エコツアー複合事業者の利用者数の合計）は年間約3万7千人であり、大島への入込観光客の1～2割が参加したこととなる。

奄美大島においては8事業者がナイトツアーを実施している。主なフィールドは奄美自然観察の森周辺と金作原周辺である。林道を車で走りながら観察するといったツアー形態がほとんどである。



左図以外にも各集落等、多くの箇所
で自然体験型活動が実施
されている



海域の利用状況

海域における自然体験型活動は、大島においては、ダイビングやシュノーケリングのフィールドとして、北部の笠利半島から名瀬市北岸、南部の焼内湾から大島海峡、加計呂麻島周辺が利用されている。笠利湾や大島海峡、焼内湾は波が穏やかであるため、シーカヤックやグラスボートなどの活動場所にもなっている。

しかし、近年オニヒトデ等による食害や白化現象、赤土の流入等の攪乱要因により、大部分の地域においてサンゴ群集の衰退がみられ、ツアーの魅力が減少するといったことが懸念されている。

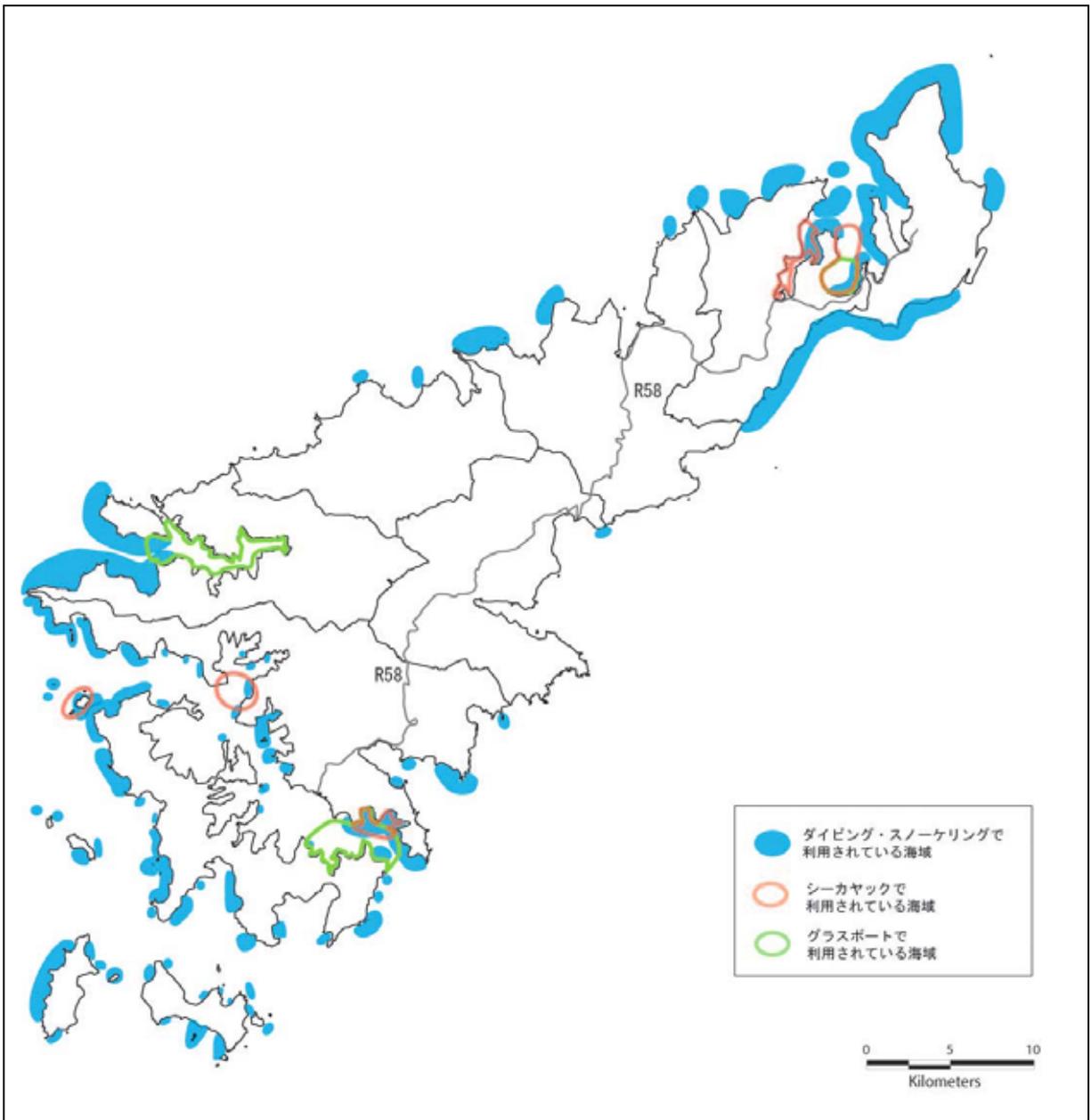


図 海域におけるエコツアーのフィールド（奄美大島）

出典：奄美群島重要生態系地域調査 第4回学術検討会資料

自然資源等の利用の問題点

ヒアリング、意見交換会等で挙げられた奄美の自然資源等の利用上の問題点は下記の通り。

【陸域利用】

林道の夜間高速走行によるロードキルやアマミノクロウサギの追い回しなど周辺環境への配慮に乏しいツアーや個人客等の増加による野生生物に対する影響が懸念される。

車やオートバイ等の入り込みの増加に伴い、周辺植生の踏み固め、林道の路肩の拡大・崩壊等が懸念されている。

近年のエコツアー等の増加により、金作原等の一部の地域にはゴールデンウィークなどの特定時期に多くの利用者が集中し、原始的な雰囲気喪失が懸念されている。

野生動植物等の盗掘・採集がみられる。

個人観光客がレンタカー等により単独で入山するケースが増加しており、安全面の確保が懸念される。

【海岸域・海域利用】

住用川・役勝川河口のマングローブ干潟においては、利用者が集中し、干潮時の干潟への上陸による小動物への影響等が懸念されている。

海における活動時の、安全面やサンゴの踏みつけ等による破損の影響が懸念されている。

新規の事業者が参入する場合に、一定の規制等はなく、地域に精通していない人や未熟なガイドが案内することにより、利用者の安全面の確保が懸念される。

【利用全般に関わる事項】

エコツアー事業者や行政機関等、関係者間での連絡・検討の場は存在せず、対策や利用のルール、奄美観光の将来像等についての協議・検討はなされていない。

奄美の素晴らしさを、地元の島民が気づいていない。

地元島民と内地から来た人の中に自然の保全に対する意識にずれがみられる。

資料：奄美自然資源等利用方策検討調査（鹿児島県）

7. 奄美における林業

島別林野面積

	総土地面積	林野面積	総面積に対する林野率	国有林			
				林野庁所管	官行造林地	その他	計
総計	124,014	82,687	67%	7,866	80	-	7,945
奄美大島	82,117	69,422	85%	4,055	80	-	4,134
喜界島	5,691	1,066	19%	-	-	-	-
徳之島	24,791	11,147	45%	3,811	-	-	3,811
沖永良部島	9,366	969	10%	-	-	-	-
与論島	2,049	82	4%	-	-	-	-

	民有林									
	県営林	市町村有林	公有林計	緑資源機構	集落有林	会社有林	個人有林	その他	私有林計	計
総計	303	15,355	15,658	1,215	18,218	7,413	28,088	4,149	59,084	74,742
奄美大島	282	14,146	14,428	1,215	16,827	7,047	22,880	2,889	50,858	65,287
喜界島	1	137	138	-	552	3	255	119	928	1,066
徳之島	9	730	739	-	808	363	4,364	1,064	6,598	7,337
沖永良部島	11	318	329	-	28	0	535	77	640	969
与論島	-	24	24	-	3	1	54	1	59	82

(注)1 総数と内訳の合計は四捨五入の関係で一致しない。

2 奄美大島には加計呂麻島、請島、与路島含む

出典：奄美群島の概況(鹿児島県)

林業生産実績

区分 市町村別	一次産品																					
	一般用材		パルプ・チップ用材		素材計		木炭・粉炭		ソテツ実		しいたけ		しゃりんばい		狩猟		種苗		その他	小計		
	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	万円	万円		
昭和 55 年度	m ³	万円	m ³	万円	m ³	万円	(俵)kg	万円	kg	万円	kg	万円	kg	万円	t	万円	頭(羽)	万円	千本	万円	万円	万円
60 "	4,324	6,918	120,948	114,901	125,272	121,819	(3,870)	890	0	0	88,367	12,371	5,192	19,885		0		0	26,944	181,910		
平成 6 年度	6,326	8,861	136,247	161,236	142,573	170,097	41,400	828	0	0	84,439	10,310	8,031	14,145	6,460	3,661	907	3,145	39,059	241,245		
7 "	8,729	13,698	47,396	46,462	56,125	60,161	63,900	1,150	599,000	5,990	84,800	9,108	1,355	6,775	2,183	5,386	532	2,739	14,380	105,688		
8 "	7,235	10,853	21,083	19,607	28,318	30,459	58,700	1,057	577,040	5,770	76,030	8,037	1,282	6,410	2,171	6,057	522	2,798	15,675	76,262		
9 "	5,858	9,002	23,783	22,571	29,641	31,574	60,000	1,032	547,400	5,474	76,000	8,094	1,239	6,195	1,737	4,474	315	1,666	23,810	82,319		
10 "	5,905	8,858	21,544	19,605	27,449	28,462	48,000	999	447,600	7,430	80,200	8,421	1,200	6,000	2,564	8,445	292	1,542	24,213	85,512		
11 "	1,764	2,646	15,048	13,693	16,812	16,339	51,000	1,056	469,500	7,794	65,800	7,679	1,134	7,129	1,957	4,772	194	1,319	18,264	64,351		
12 "	6,381	9,572	4,746	4,366	11,127	13,938	92,577	2,062	345,624	5,081	51,800	5,186	1,003	6,061	2,081	3,781	289	1,884	13,954	51,946		
13 "	2,600	3,900	4,526	4,364	7,126	8,064	77,378	1,484	181,050	3,873	62,339	5,941	860	5,154	1,753	4,647	338	1,877	13,919	44,958		
14 "	3,758	5,261	3,324	2,659	7,082	7,920	70,610	1,149	142,700	4,735	49,701	4,743	845	5,068	2,044	5,977	507	4,060	13,421	47,072		
15 "	3,393	4,750	2,985	2,090	6,378	6,840	39,125	685	120,300	2,017	40,369	4,085	895	5,365	2,055	5,035	199	3,020	12,021	39,067		
16 "	3,804	4,945	3,154	2,208	6,958	7,153	31,557	557	98,900	1,931	26,320	2,913	841	5,046	1,798	4,060	164	2,672	11,976	36,309		
17 "	3,686	4,423	1,757	1,230	5,443	5,653	24,542	445	79,800	1,995	33,046	3,304	807	4,843	2,767	6,283	166	2,270	10,354	35,147		
17 "	2,891	3,180	3,596	2,517	6,487	5,697	25,512	574	63,042	1,040	29,177	2,762	695	4,165	1,730	3,851	189	3,049	11,481	32,618		

区分 市町村別	二次産品							一次・二次産品 合計 万円
	チップ		製材品		パーク		小計	
	量	額	量	額	量	額		
昭和 55 年度	m3	万円	m3	万円	t	万円	万円	万円
60 "	-	-	-	-	-	-	-	181910.1
平成 6 年度	131791	221408.9	5195	29429.6	15677	3919.3	254757.8	496002.4
7 "	39084	60442.4	1707	7887	6928	1385.6	69715	175402.9
8 "	18958	28179.2	1073	4598.5	2948	589.6	33367.3	109629.6
9 "	20621	30677	1205	5320	4016	803.2	36800.2	119118.7
10 "	17440	25811.2	400	1323	2392	355.2	27489.4	113001
11 "	15029	22242.5	355	1180	2000	337	23759.5	88110.4
12 "	4115	6090	965	3203	547	92.1	9385.1	61331.1
13 "	5400	5400	2130	7084.3	500	84.1	12568.4	57526.7
14 "	4000	4000	1765	6120.2	400	65	10185.2	57257.3
15 "	4500	4800	1700	6800	400	65	11665	50731.7
16 "	5600	5600	725	4706.8	800	160	10466.8	46775.4
17 "	4200	4200	1245	6480	800	209.5	10889.5	46036.9
17 "	3100	3100	1113	5972	680	171.7	9243.7	41861.3

出典：奄美群島の概況(鹿児島県)

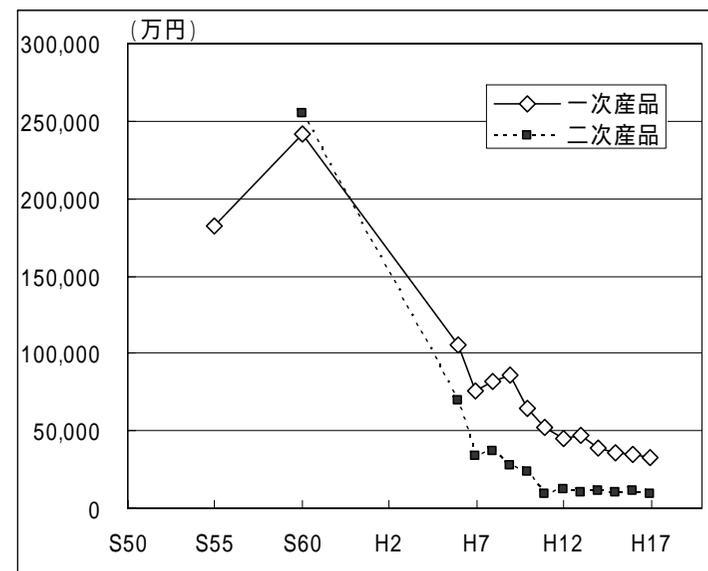


図-林業生産額の推移

木材業、製材業及びチップ工場の所在状況

年度別	素材生産業 (件) (～ H10 = 木材業登録者)	製材工場 (件) (～ H10 = 製材業登録者)	チップ工場 (件)
昭和 55 年度	111	11	6
60 "	115	11	7
平成 2 "	106	8	7
5 "	92	7	7
6 "	78	7	6
7 "	63	5	3
8 "	59	4	3
9 "	59	4	3
10 "	57	4	3
11 "	6	4	1
12 "	6	4	1
13 "	4	5	1
14 "	4	5	1
15 "	5	5	1
16 "	5	4	1
17 "	5	4	1
(奄美大島)	4	3	1
名瀬市	2	-	-
大和村	-	-	-
宇検村	1	1	-
瀬戸内町	1	1	-
住用村	-	-	-
龍郷村	-	-	-
笠利村	-	1	1
(喜界島)	-	-	-
喜界町	-	-	-
(徳之島)	1	1	-
徳之島町	-	-	-
天城町	1	1	-
伊仙町	-	-	-
(沖永良部島)	-	-	-
和泊町	-	-	-
知名町	-	-	-
(与論島)	-	-	-
与論町	-	-	-

(注) 1 市町村別内訳は平成 17 年度分

2 木材業・製材業の登録制度は、平成 10 年度末で廃止された。

3 奄美大島には、加計呂麻島、請島、与路島を含む。

出典：奄美群島の概況(鹿児島県)